

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の考察

苫小牧市

公表

令和7年8月20日

苫小牧市教育委員会 教育部 指導室

目次

○令和7年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

・調査の概要	1
・小学校国語科	2
・小学校算数科	3
・小学校理科	4
・中学校国語科	5
・中学校数学科	6
・中学校理科	7

○令和7年度全国学力・学習状況調査児童質問（小学6年児童）調査の結果と考察

・学習に対する興味・関心等（国語）	8
・学習に対する興味・関心等（算数）	10
・学習に対する興味・関心等（理科）	12
・規範意識・自己有用感	14
・生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心	16
・ICTの活用	19
・学校生活	22

○令和7年度全国学力・学習状況調査生徒質問（中学3年生徒）調査の結果と考察

・学習に関する興味・関心等（国語）	25
・学習に関する興味・関心等（数学）	27
・学習に対する興味・関心等（理科）	29
・規範意識・自己有用感	31
・生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心	33
・ICTの活用	36
・学校生活	37

○令和7年度全国学力・学習状況調査学校質問調査の結果と考察

・学力向上に向けた取組＜ICTの活用＞	40
・学力向上に向けた取組＜小中連携の取組＞	41
・学力向上に向けた取組＜授業改善＞	41

令和7年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

令和7年8月20日 苫小牧市教育委員会

- ・平均正答率については、四捨五入した整数値で公表しております。
- ・平成30年度まで国語と算数・数学は、A問題（主として知識に関する問題）、B問題（主として活用に関する問題）に分かれて実施されていましたが、平成31年度調査より知識・活用を一体的に問う調査問題と変更されました。
- ・令和2年度全国学力・学習状況調査は新型コロナウイルス感染症に係る影響のため中止となり、児童生徒質問紙のみ実施しました。令和2年度の数値は参考値となります。
- ・令和7年度から中学校理科はCBT（コンピューターでのテスト方式）での実施となり、IRT（項目反応理論）により結果が提示されることとなりました。

※IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

調査の概要

- 1 実施日
令和7年4月17日（木）
- 2 調査対象
(1) 小学校第6学年
(2) 中学校第3学年
- 3 対象学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
苫小牧市	23	1,365	15	1,288

※小学校数には、義務教育学校前期課程、中学校数には、義務教育学校後期課程を含む。

- 4 調査事項
(1) 教科に関する調査
小学校…国語科、算数科、理科の3教科 中学校…国語科、数学科、理科の3教科
(2) 生活習慣、学習環境等に関する質問調査
①児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
②学校に対する調査（指導方法、教育条件の整備等）

苫小牧市の小・中学校における全体的な傾向

(学力に関すること)

- ★小学校国語の平均正答率は全国平均より5%程度下回っています。
- ★小学校算数の平均正答率は全国平均より7%程度下回っています。
- ★小学校理科の平均正答率は全国平均より3%程度下回っています。
- ★中学校国語の平均正答率は全国平均より2%程度下回っています。
- ★中学校数学の平均正答率は全国平均より6%程度下回っています。
- ★中学校理科の平均IRTスコアは全国平均より20程度下回っています。

(学校生活に関すること)

☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的に回答した割合が全国平均を上回るとともに、その割合は9割を超えています。

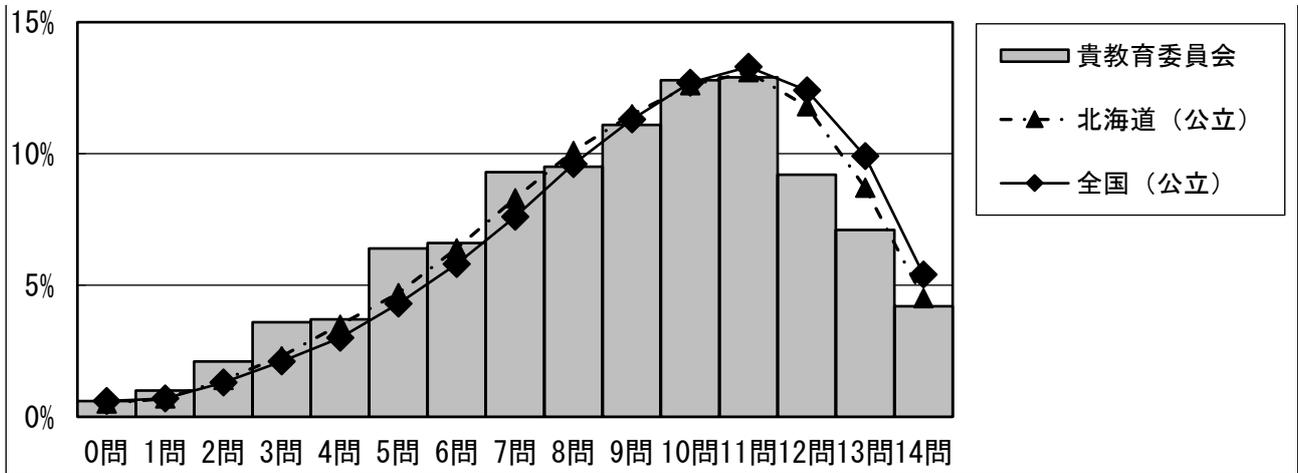
(いじめに関すること)

☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と肯定的な回答をした割合が、9割を超えています。

調査結果概況 [国語]

苫小牧市教育委員会—児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



小学校 国語科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	8.7 / 14	62
北海道	9.2 / 14	65
全国	9.4 / 14	66.8

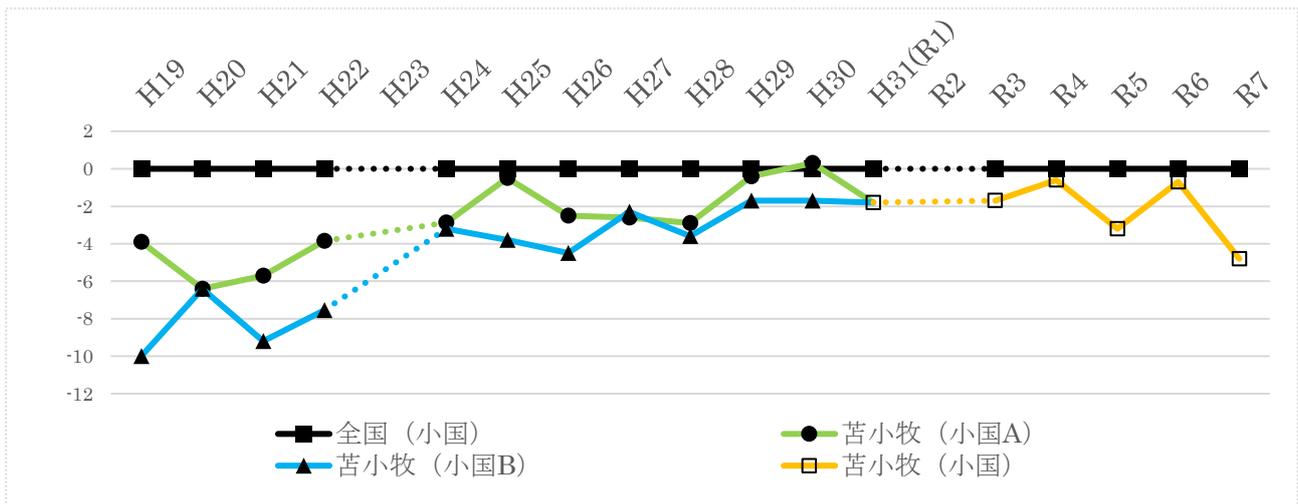
平均正答数

出題数に対する正答数の
の平均値

平均正答率

問題数を100%とし
た時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



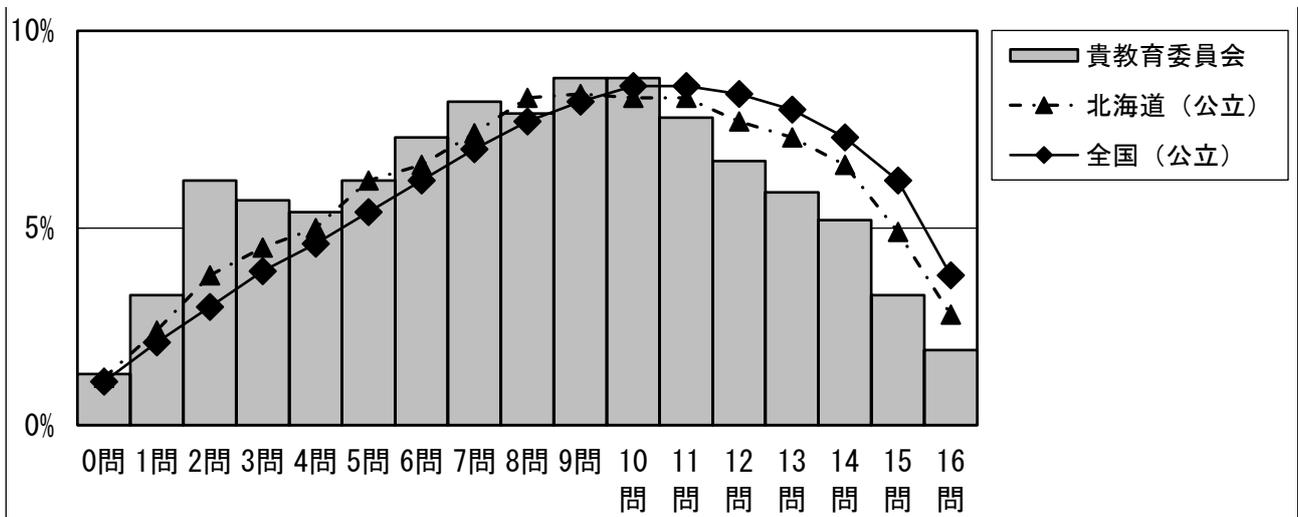
分析と考察

- 選択式のすべての設問において、無解答率が全国平均を下回っており、問題に対して前向きに取り組んでいた様子がうかがえます。
- 全体的に正答率が全国平均より下回っています。経年比較からも、全国との差が広がったといえることから、国語科の授業改善が求められます。
- 「読むこと」では、目的に応じ文章と図表を関連付けて必要な情報を見つけることに課題が見られ、全国平均との正答率の差や無解答率の高さが目立ちます。

調査結果概況 [算数]

苫小牧市教育委員会—児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



小学校 算数科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	8.1 / 16	51
北海道	8.8 / 16	55
全国	9.3 / 16	58

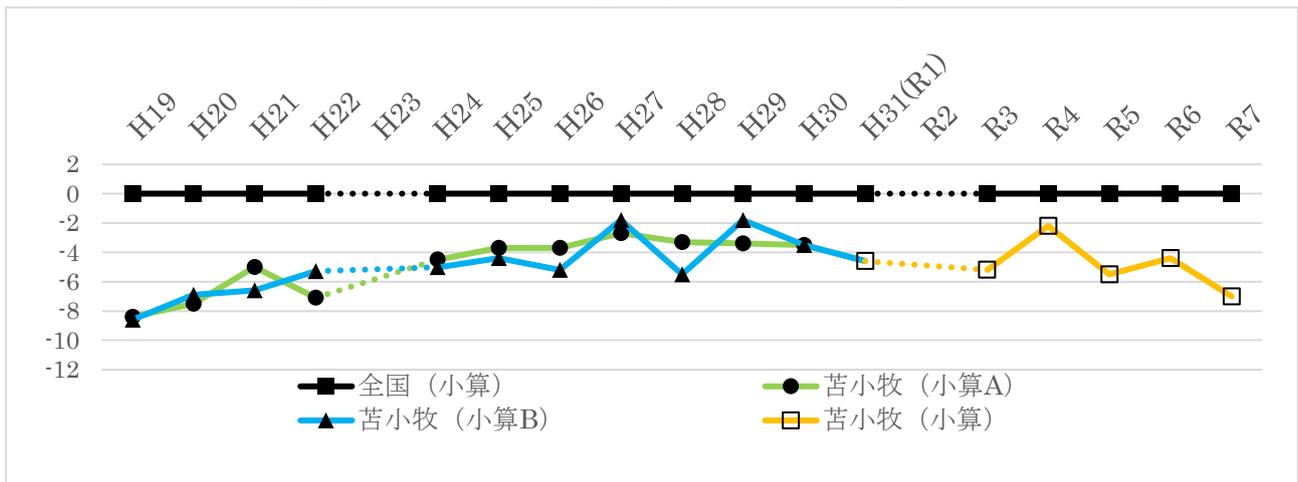
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



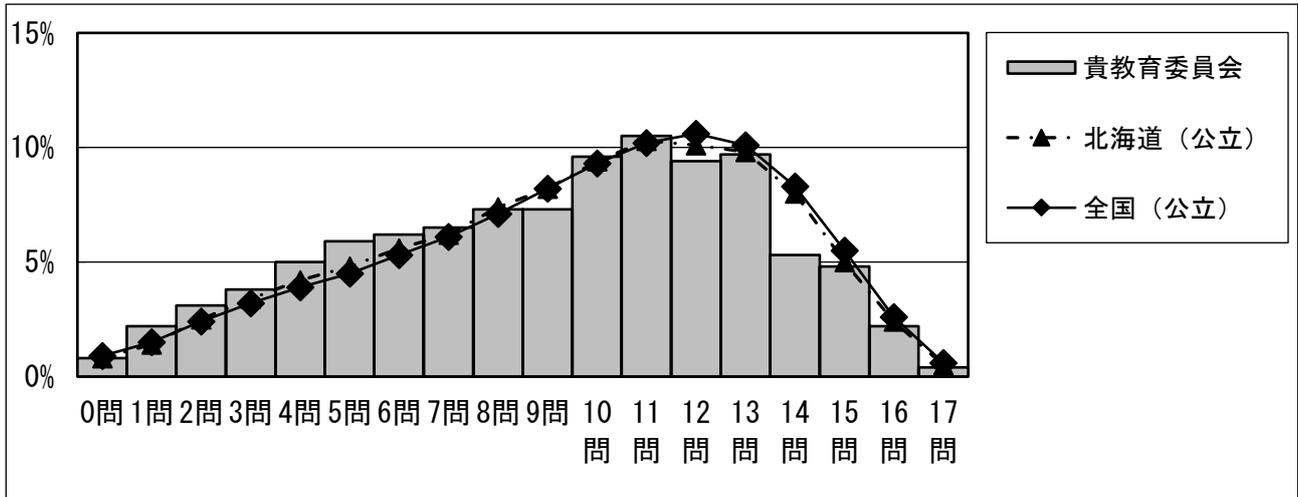
分析と考察

- 「測定」領域の正答率が全国平均を大きく下回っています。伴って変わる二つの数量の関係に着目して問題を解決するために必要な数量を見いだすことや、はかりの目盛りを正しく読むことに課題が見られます。
- 「記述式」のすべての問題において、正答率が全国平均を下回っています。無解答率は全国平均と大差ないことから、今後の授業改善を通して、式や言葉、数を用いて説明したり記述したりする力の向上が求められます。

調査結果概況 [理科]

苫小牧市教育委員会—児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



小学校 理科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	9.1 / 17	54
北海道	9.6 / 17	56
全国	9.7 / 17	57.1

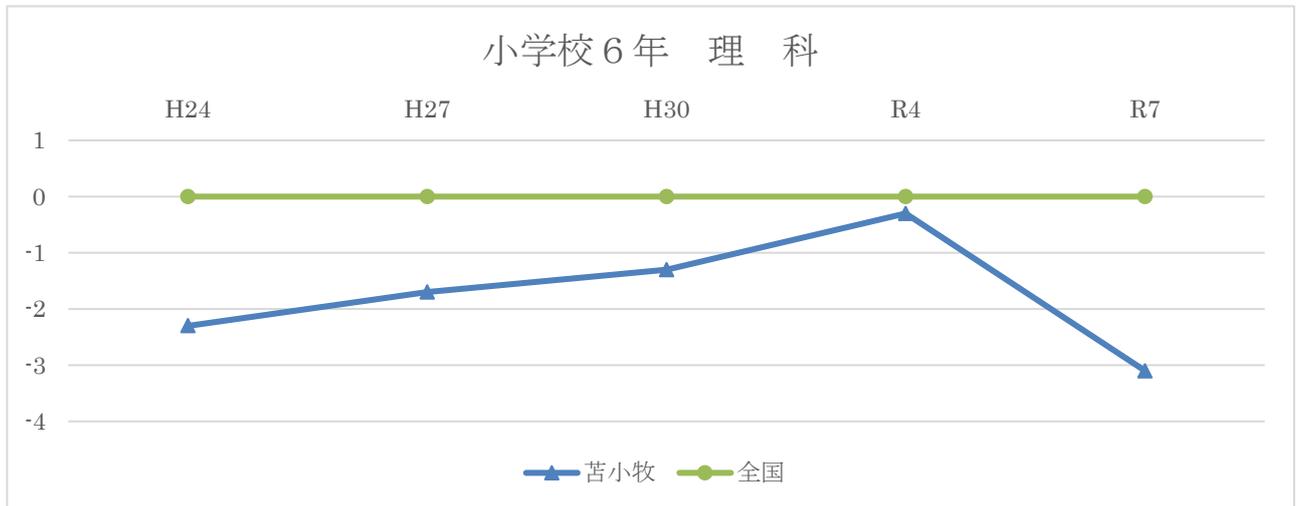
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



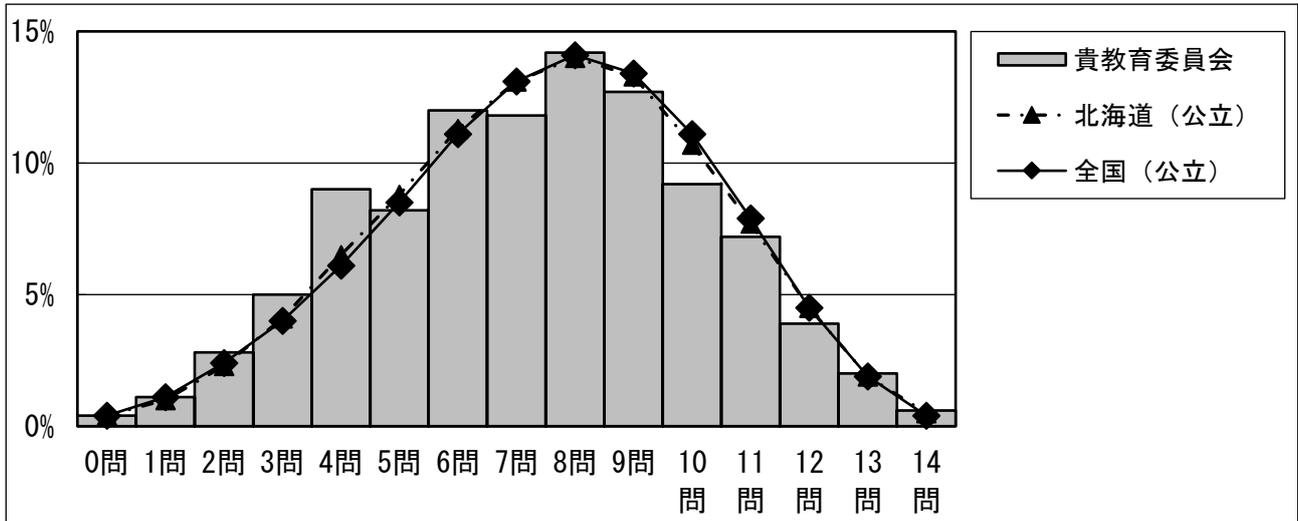
分析と考察

- 「知識・技能」に関する問題において、平均正答率が全国と同程度となっています。また、対象物を観察する際、適切な像にするための顕微鏡の操作に関する問題は全国平均を上回っています。無解答率も概ね全国平均より低いことから、問題に粘り強く取り組んだことがうかがえます。
- 差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし表現することや、自然事象に関する問題に対して、解決するための方法が適切か判断し表現することに課題が見られます。理科の見方や考え方を働かせながら表現する力を高めていくことが求められます。

調査結果概況 [国語]

苫小牧市教育委員会—生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



中学校 国語科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	7.3 / 14	52
北海道	7.6 / 14	54
全国	7.6 / 14	54.3

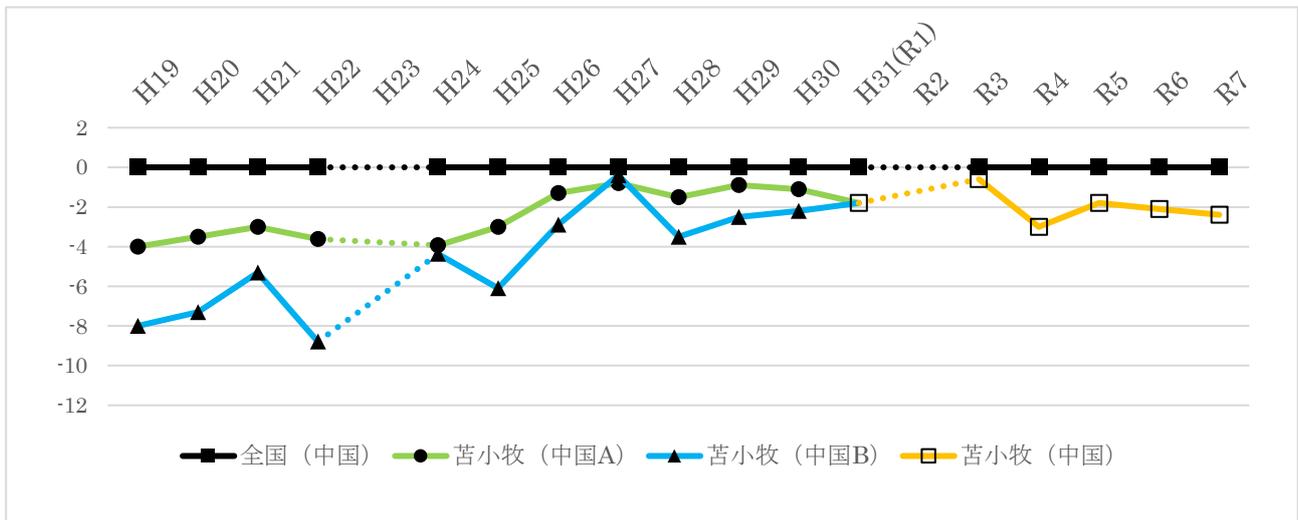
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



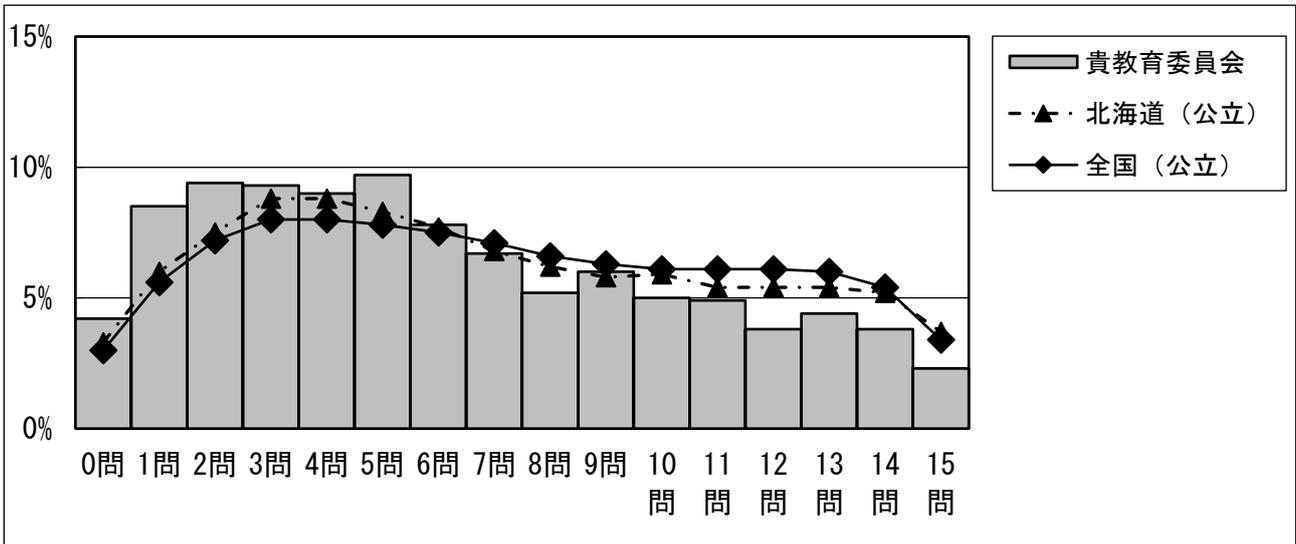
分析と考察

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、文脈に即して漢字を正しく書く問題で正答率が全国平均を上回っています。
- 「記述式」のすべての問題で正答率が3割を下回り、書くことに課題が見られます。特に、文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることや、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することについて正答率の低さが目立ちます。各単元において言語活動を充実させ、書く力を高めていくことが求められます。

調査結果概況 [数学]

苫小牧市教育委員会—生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



中学校 数学科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	6.2 / 15	42
北海道	7.0 / 15	47
全国	7.2 / 15	48.3

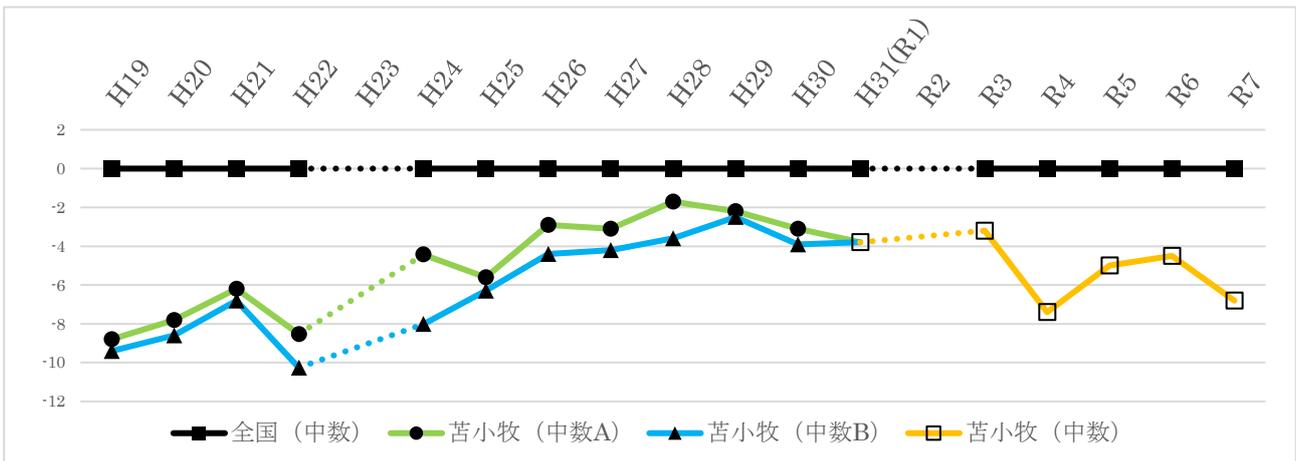
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



分析と考察

- すべての問題について、平均正答率が全国平均を下回っています。基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、習得した知識を活用して問題を解決する学習過程を取り入れるなど、より一層充実した授業改善が必要であるとうかがえます。
- 「記述式」の問題では、3～4割の生徒が無解答となっています。特に、式の意味を読み取り、そこから成り立つ事柄を見いだして数学的に説明する問題では、正答率の低さも目立ちます。日常的に、数学的活動を意識した授業づくり、指導方法の工夫・改善が求められます。

調査結果概況 [理科]

苫小牧市教育委員会—生徒

中学校 理科に関する調査結果

以下の集計値／グラフは、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を対象として集計した値である。問題の構成は、公開問題（全日程に関する問題が6問、実施日より異なる問題が4問）と非公開問題（生徒ごとに異なる問題が16問）の26問となっている。

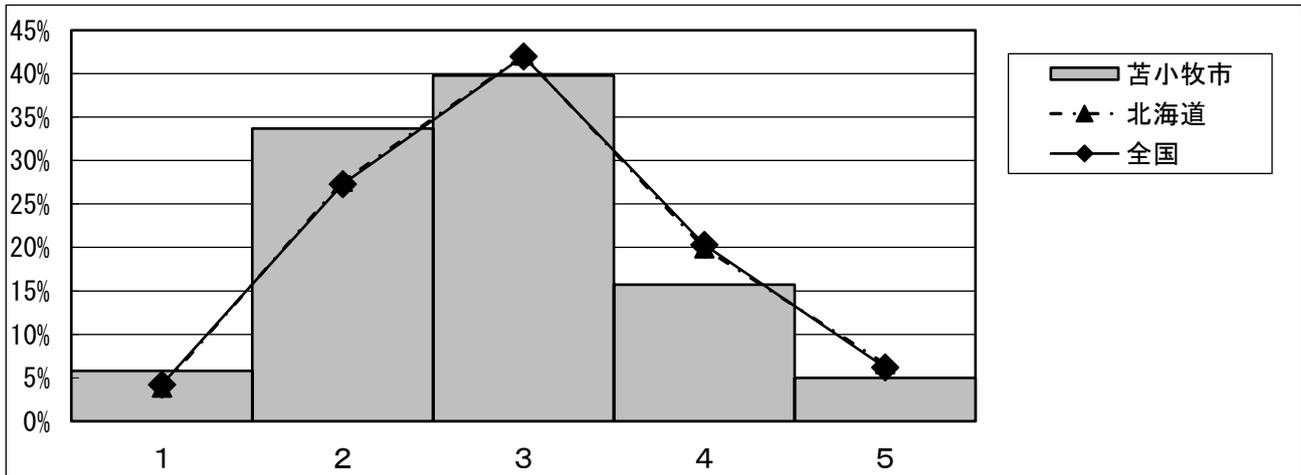
IRT スコア集計値

	平均 IRT スコア
苫小牧市	483
北海道	505
全国	503

【IRT スコアとは】

IRT に基づき各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



【IRT バンドとは】

IRT スコアを1～5の5段階で区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。IRT バンドを IRT スコアに換算すると、およそ下表のような対応関係となる。

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

分析と考察

- 実験操作の技能や、気圧に関する身近な事象について概念が身に付いているか問う問題においては、平均正答率が全国を上回っています。
- 平均 IRT スコアは全国平均よりも20低い結果となっており、IRT バンド3～5の分布割合が全国よりも低いことがうかがえます。
- 「思考・判断・表現」の観点で、平均正答率が全国平均を下回る問題が多く見られています。特に、実験の様子と知識・技能を関連付けて解釈することや、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的・多角的に分析することに課題が見られます。

令和7年度全国学力・学習状況調査児童質問（小学6年児童）調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

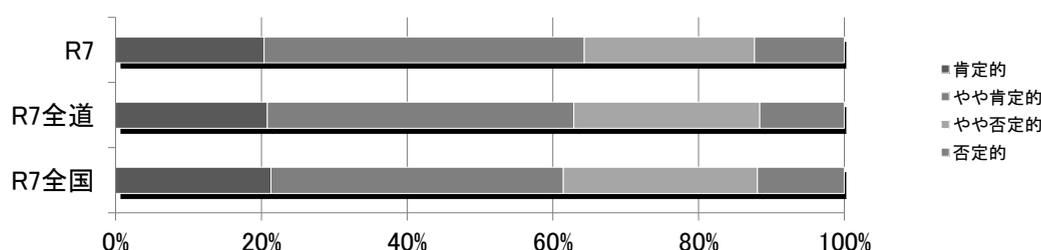
小学6年児童

- ①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
- ②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
- ③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
- ④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

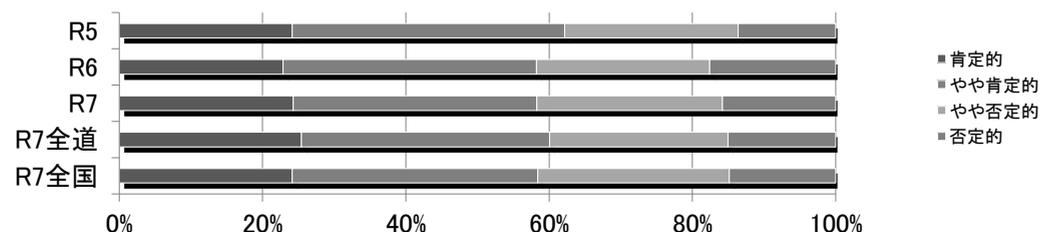
学習に対する興味・関心等 (国語)

【考察】 ほぼ全ての設問において、肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。また、「国語の勉強は得意」と答えている児童は60%を超え、令和6年度全国平均を下回っている「国語の勉強は好き」と答えた児童の割合も全国平均を上回っている。これらの結果から、児童の興味関心や問題意識を生かしたり、課題を児童自身の力で解決させたりする等、主体的な学びを引き出す学習過程の工夫がなされてきた成果が表れているとかがえる。

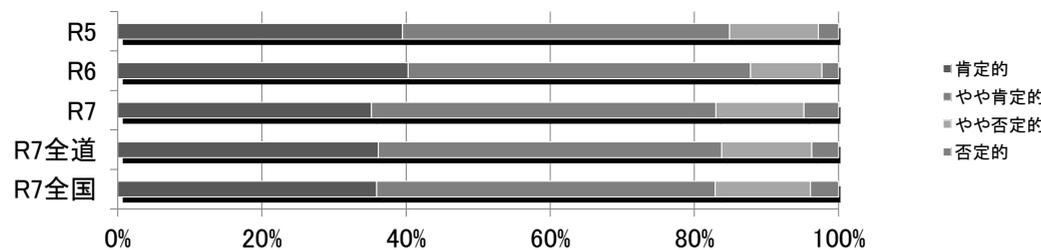
44 国語の勉強は得意。（新設問）



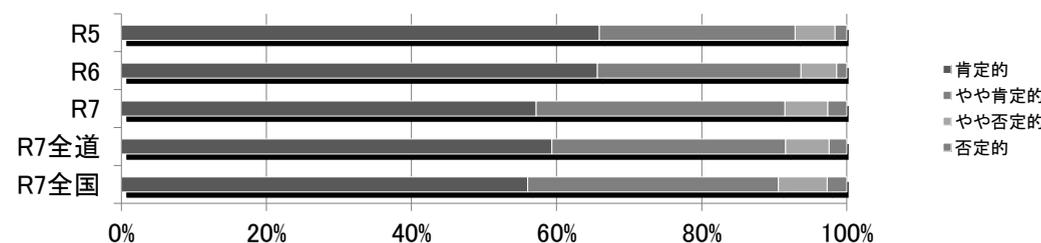
45 国語の勉強は好き。



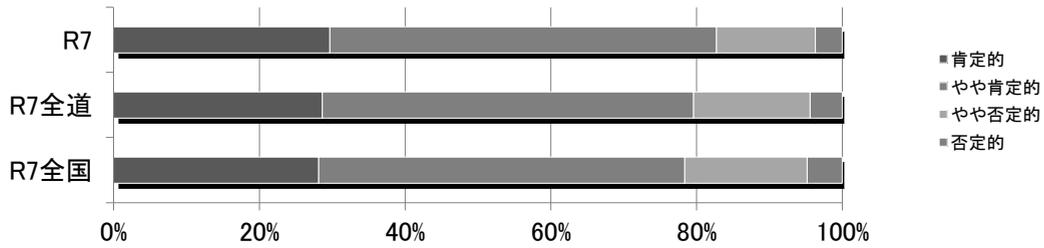
46 国語の授業の内容はよく分かる。



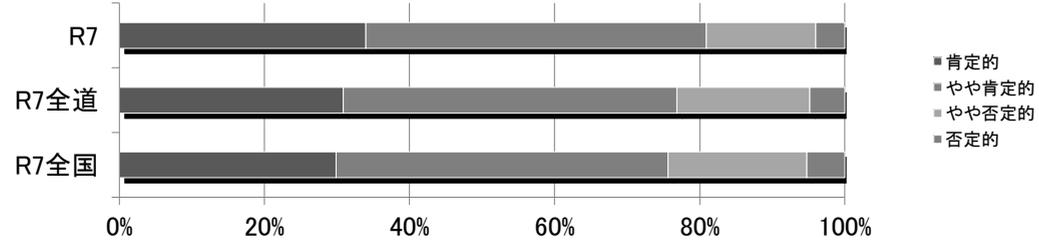
47 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



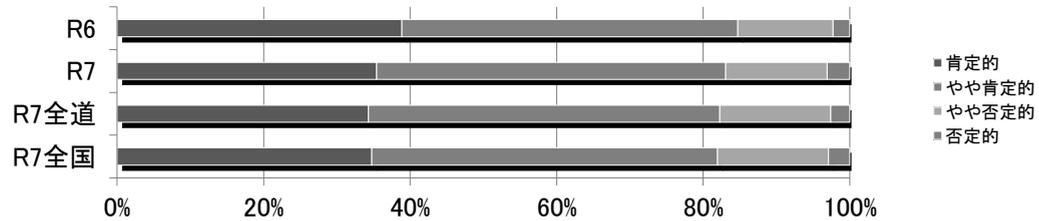
48 国語の授業で、先生は自分の良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。
 (新設問)



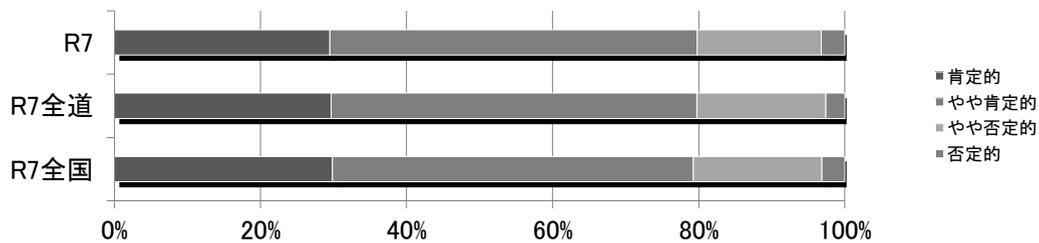
49 国語の授業で、先生は、自分の学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。(新設問)



50 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。

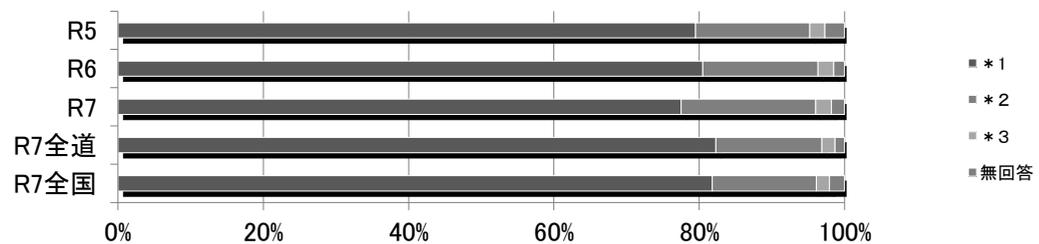


51 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。(新設問)



国(1) 今回の国語の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

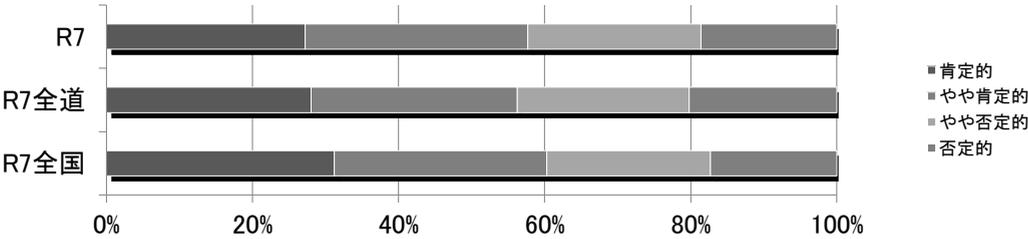
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



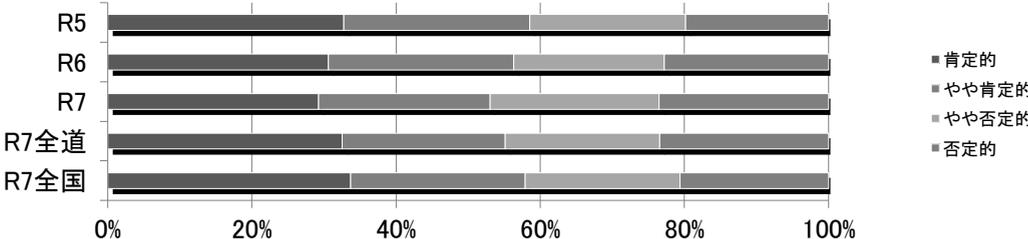
**学習に対する興味・関心等
(算数)**

【考察】 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」の設問に対して肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均を上回っていることから、算数を学ぶ意義や必要感を抱きながら学んでいることがうかがえる。一方で、「算数の勉強は得意」「算数の勉強は好き」に肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っていることから、基礎・基本の内容の定着を図り、児童が主体的に学ぶことができるよう授業改善を継続していく必要がある。

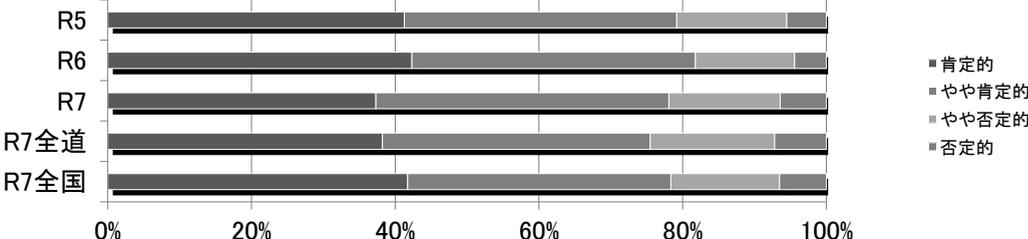
52 算数の勉強は得意。(新設問)



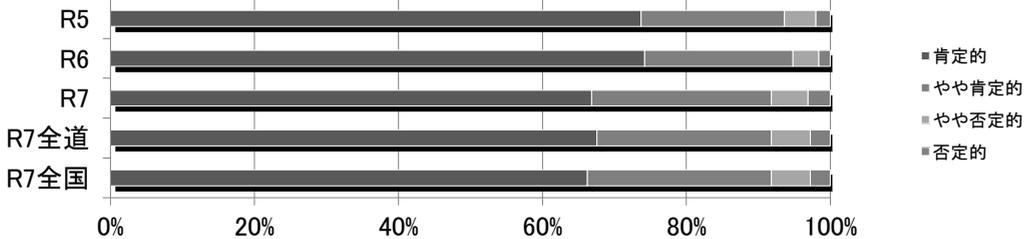
53 算数の勉強は好き。



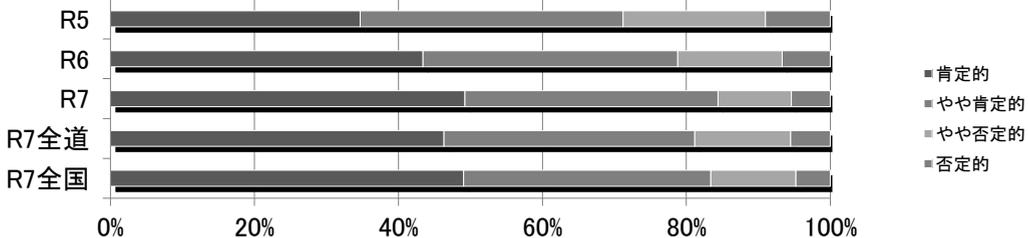
54 算数の授業の内容はよく分かる。



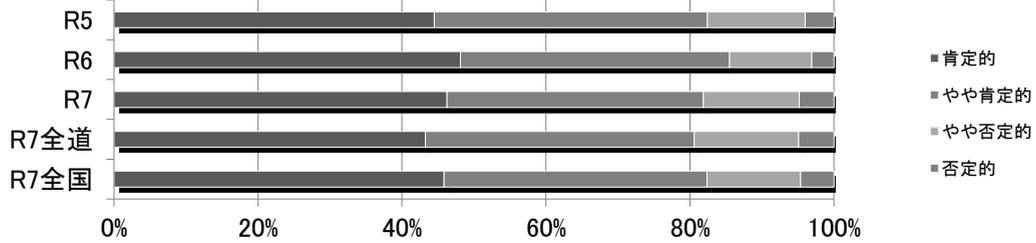
55 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



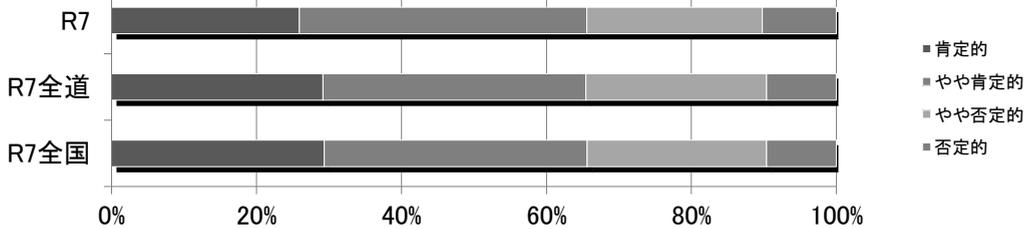
56 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。



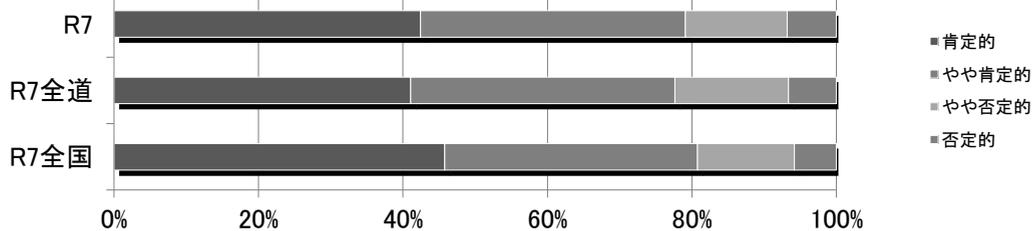
57 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



58 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。(新設問)

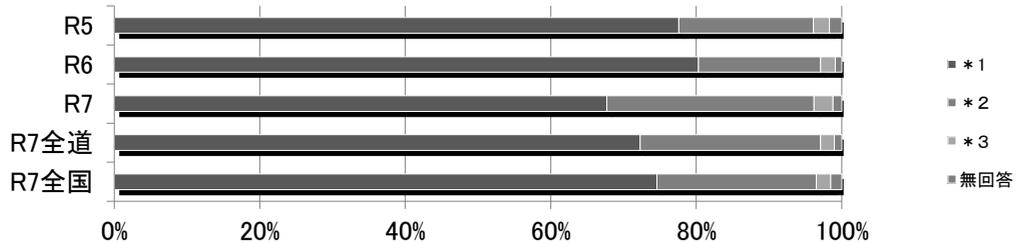


59 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている。(新設問)



算(1) 今回の算数の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

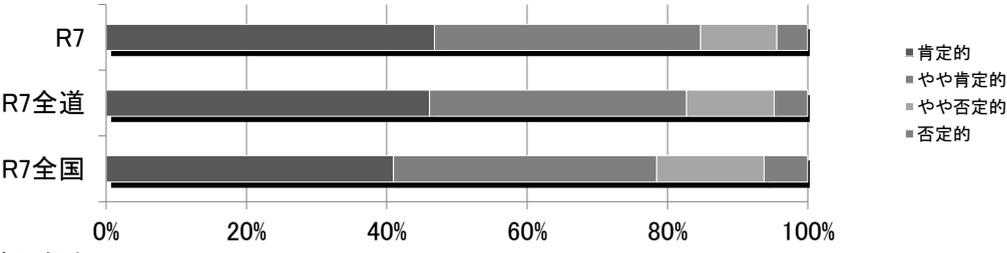
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



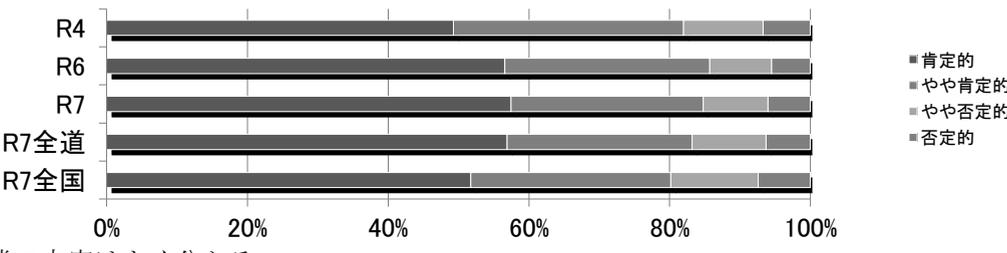
**学習に対する興味・関心等
(理科)**

【考察】 理科におけるほぼすべての設問において、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っている。特に、「理科の勉強は好き」「理科の授業の内容はよく分かる」と回答した割合が令和4年度から増加している。問題解決の過程を大切にされた授業が各校で推進されているとともに、児童の興味関心を高め、理解を深められるような手立てがとられていることがうかがえる。

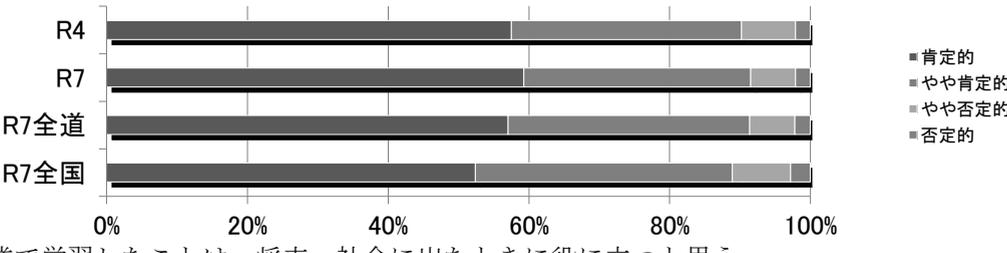
60 理科の勉強は得意。(新設問)



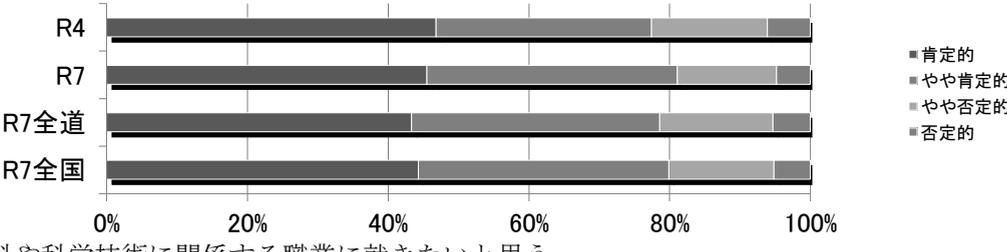
61 理科の勉強は好き。



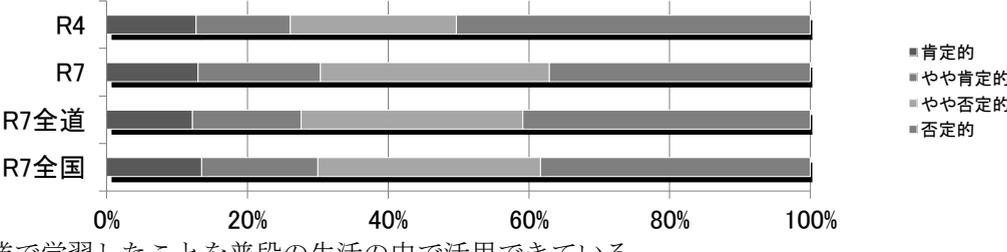
62 理科の授業の内容はよく分かる。



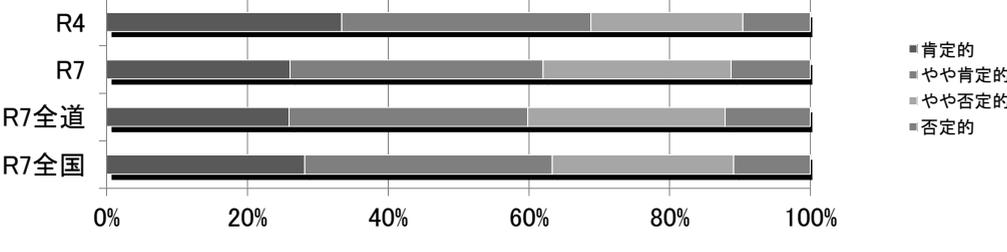
63 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



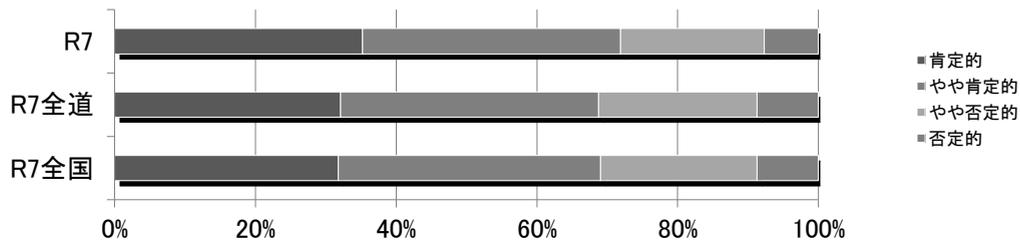
64 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思う。



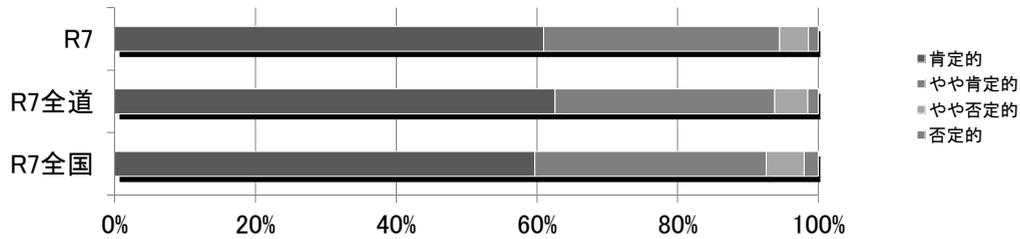
65 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている。



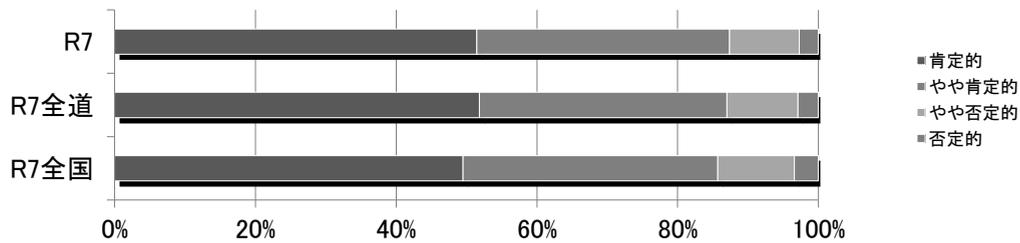
66 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。(新設問)



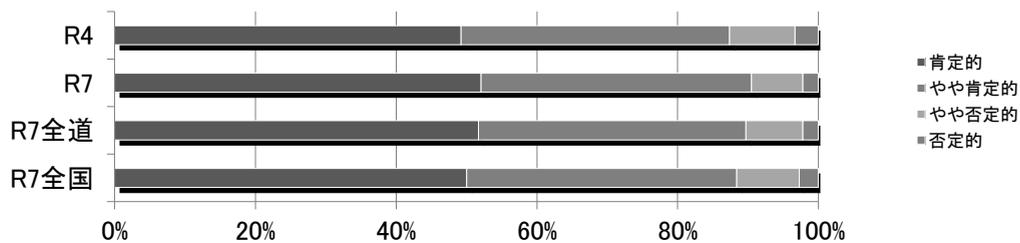
67 理科の授業では、観察や実験をよく行っている。(新設問)



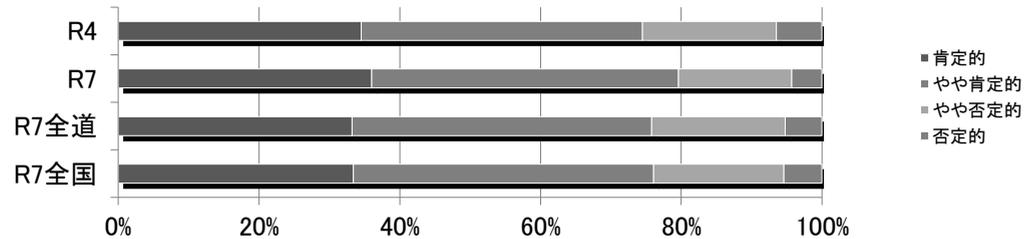
68 理科の授業では、問題に対して答えがどのようなものか、自分で予想(仮説)を考えている。(新設問)



69 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。

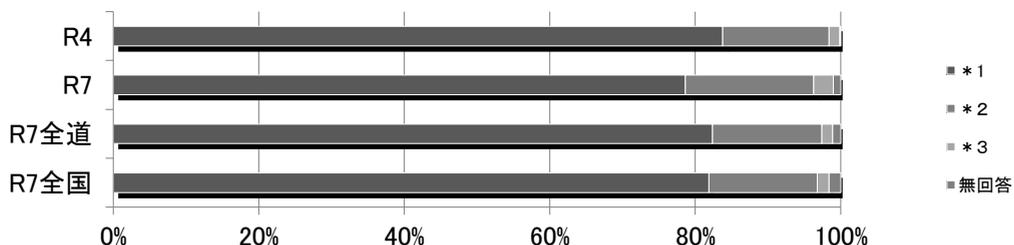


70 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。



理(1) 今回の算数の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

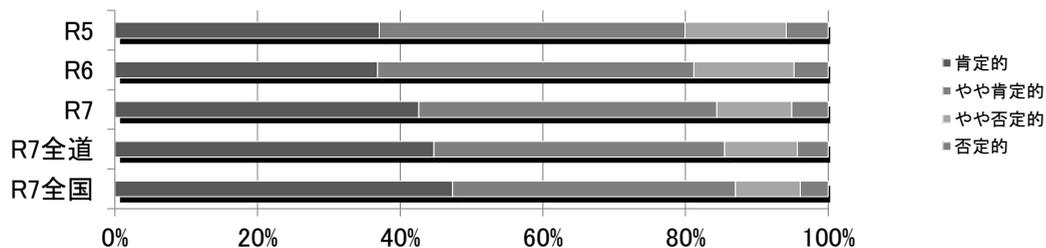
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



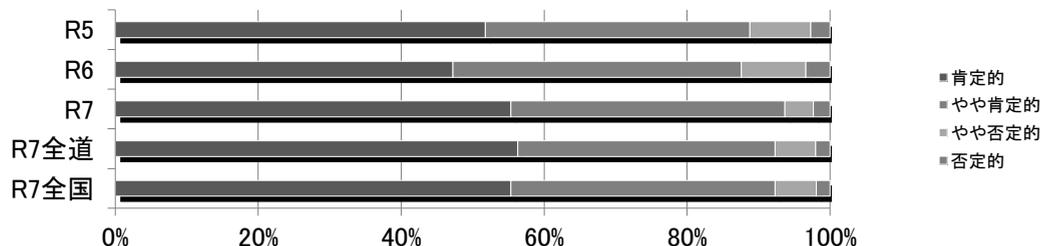
規範意識・自己有用感

【考察】 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合が全国平均を上回っているとともに、90%近い児童が肯定的な回答をしている。学校の教育活動全体を通して道德教育の充実に取り組むとともに、「苫小牧市いじめ防止基本方針」や、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組が充実してきた結果だとうかがえる。また、「自分にはよいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が増加していることから、自己有用感が高まるよう学校と家庭が連携しながら児童の成長を支えている様子がうかがえる。

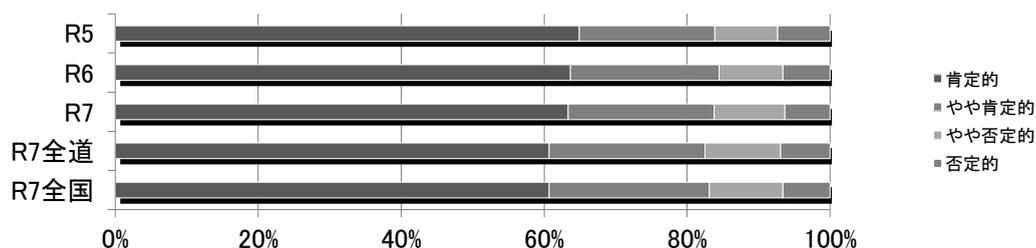
5 自分には、よいところがあると思う。



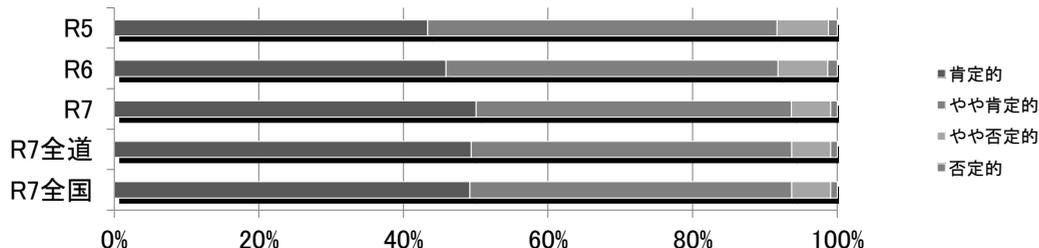
6 先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。



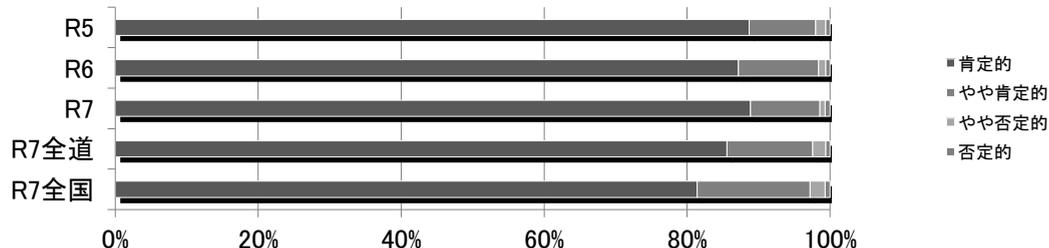
7 将来の夢や目標を持っている。



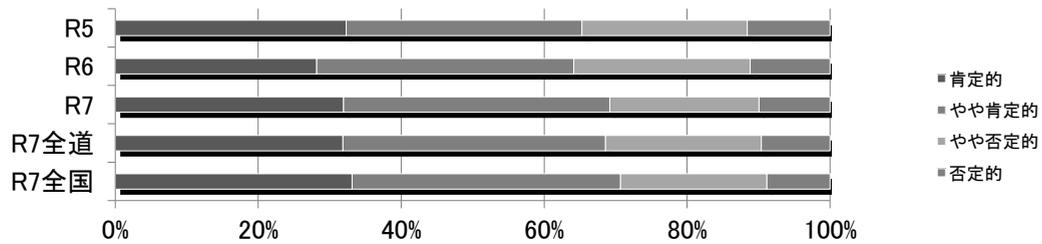
8 人が困っているときは、進んで助けている。



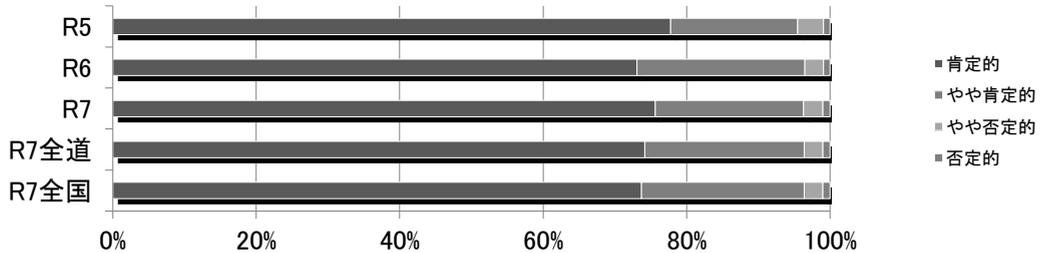
9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



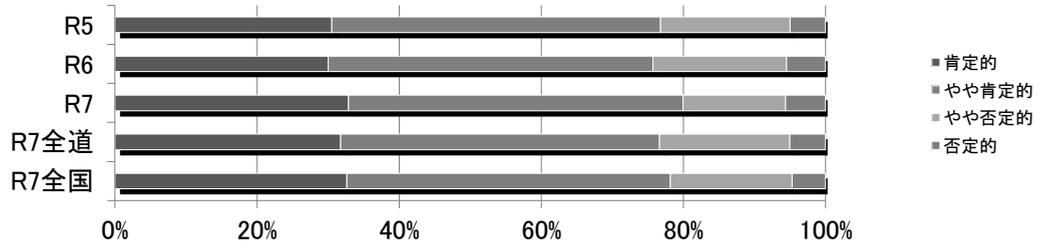
10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



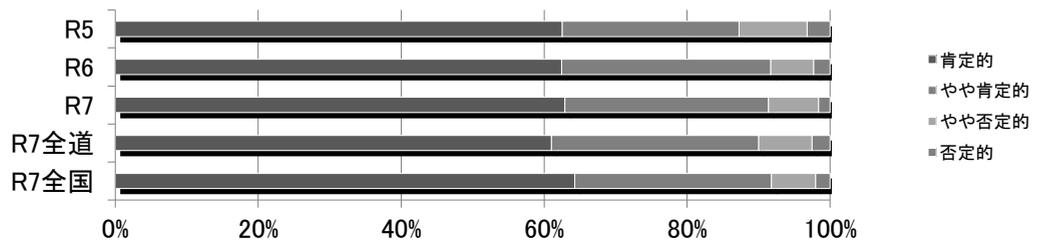
11 人の役に立つ人間になりたいと思う。



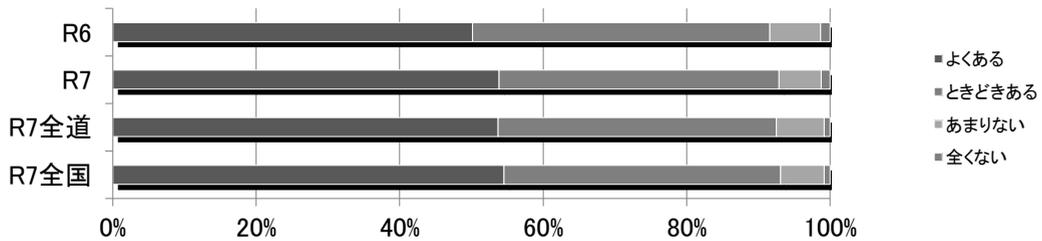
13 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



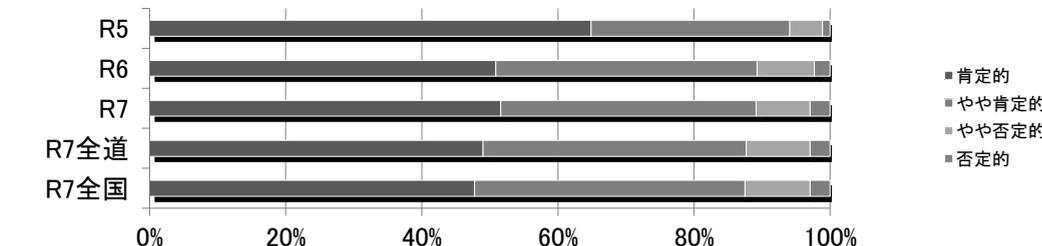
14 友達関係に満足している。



15 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。



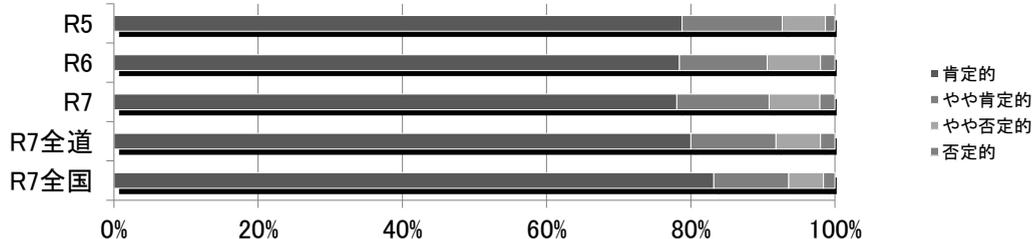
38 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。



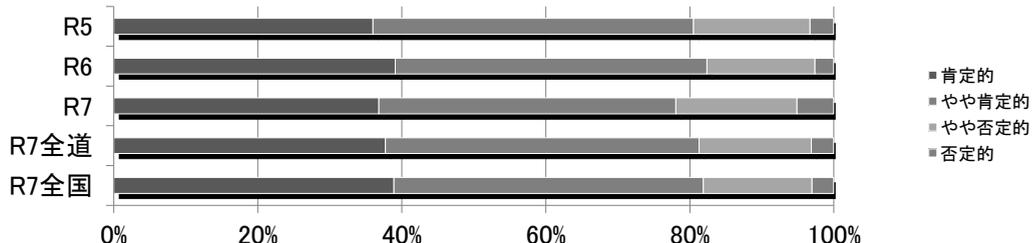
生活習慣・学習習慣・
地域や社会への関心

【考察】 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均を上回っている。また、「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている」と回答した児童の割合も全国平均と同等であることから、適切な生活習慣や地域や社会に意識が向いていることがうかがえる。今後も、学校と家庭が連携し、児童が望ましい生活習慣・学習習慣を身に付けられるよう継続的な支援が求められる。

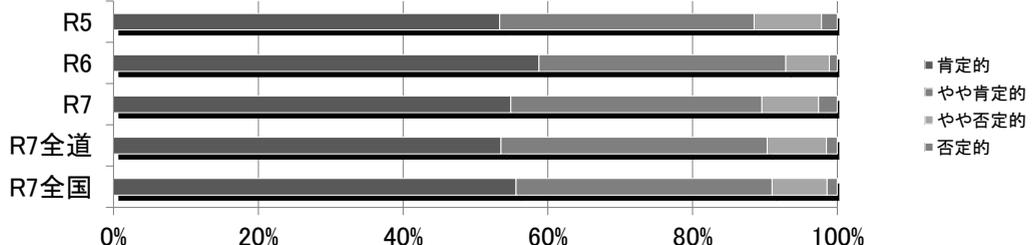
1 朝食を毎日食べている。



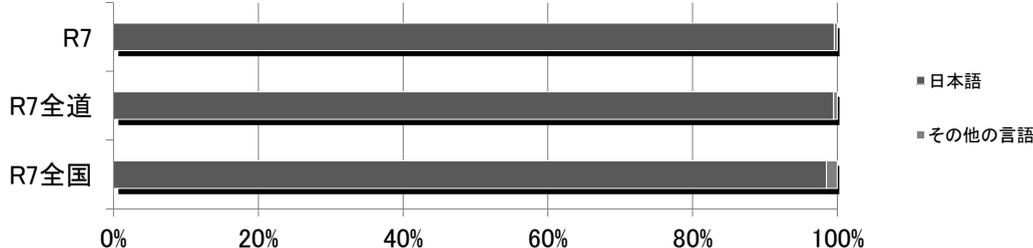
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



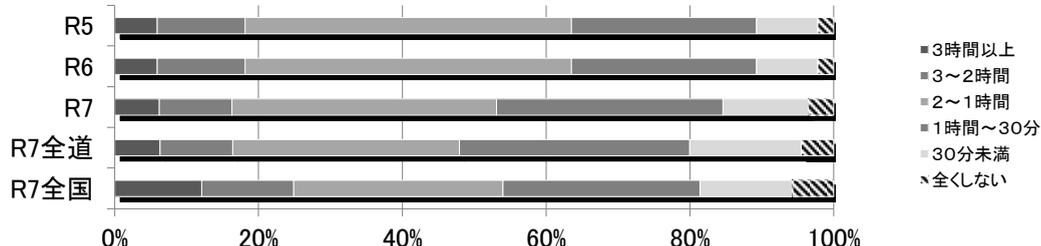
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



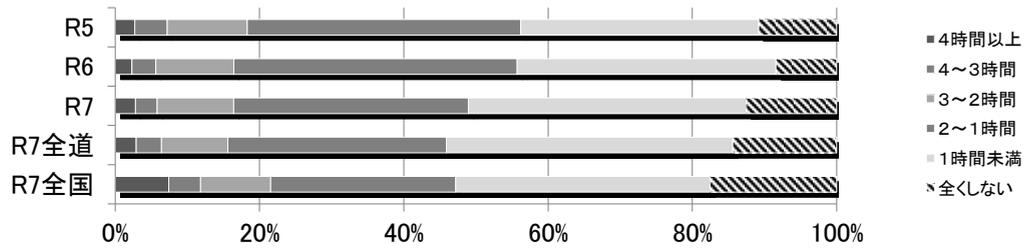
4 家では主に何語を話しているか。



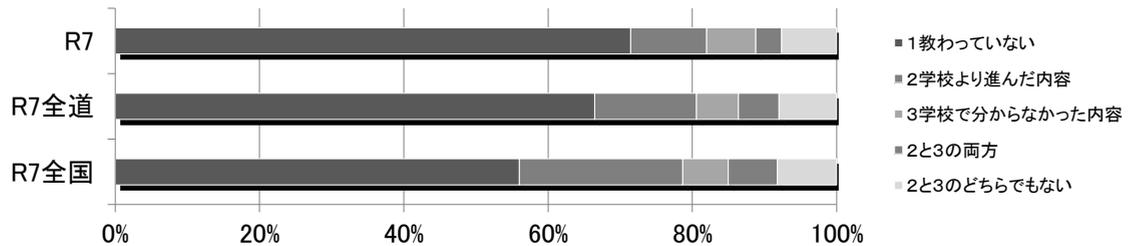
17 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



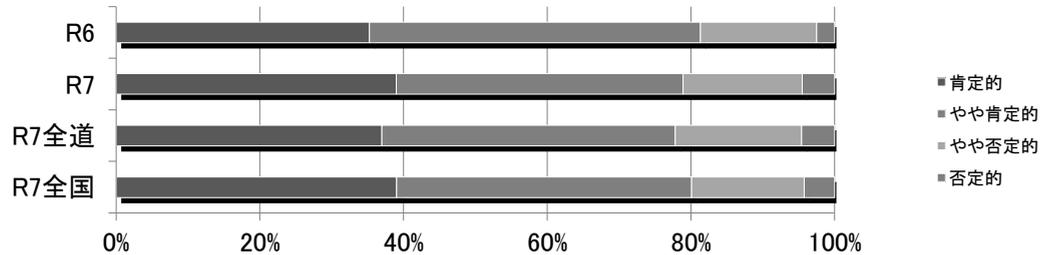
19 休み(土日等)の日の、1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



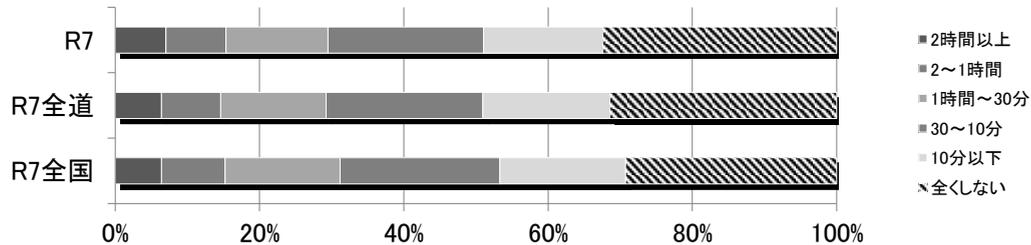
20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか。(オンライン授業の場合も含む) (新設問)



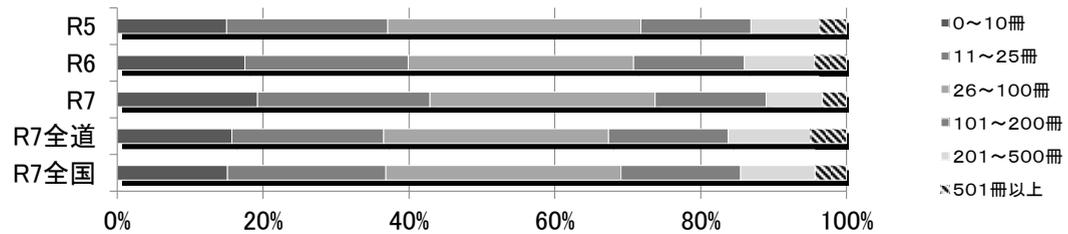
71 健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。



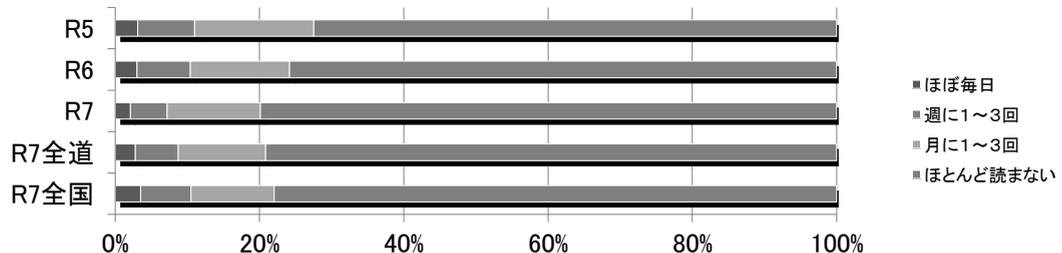
21 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) (新設問)



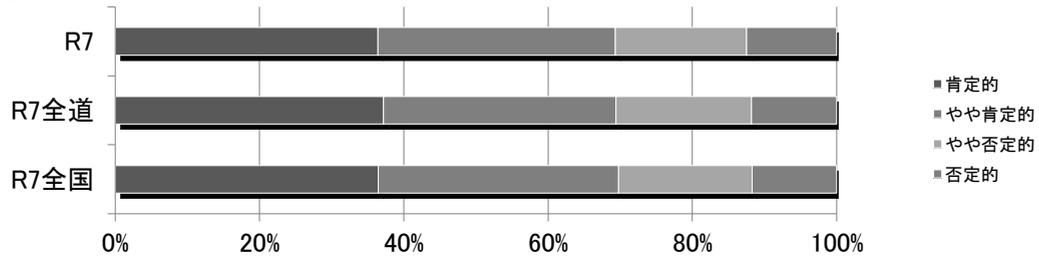
22 家にある本の冊数。(雑誌、新聞、教科書は除く)



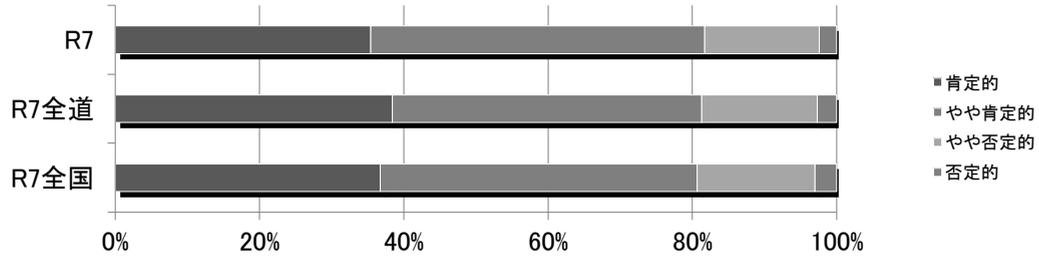
23 新聞を読んでいる。



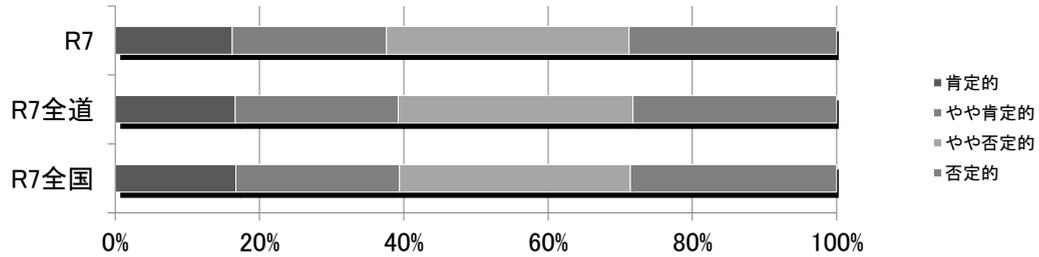
24 読書は好きか。(新設問)



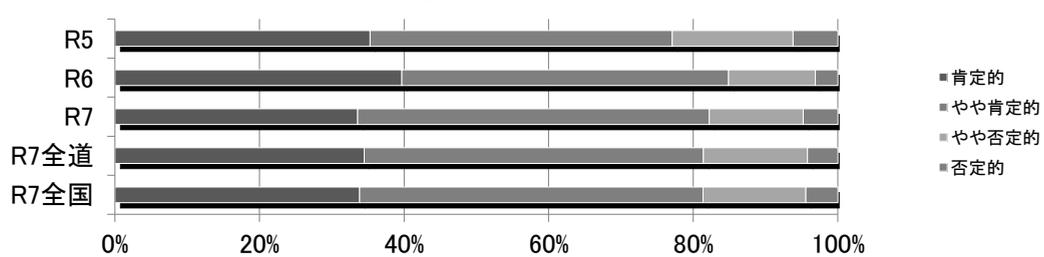
25 これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあったか。(新設問)



26 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあるか。(習い事は除く) (新設問)



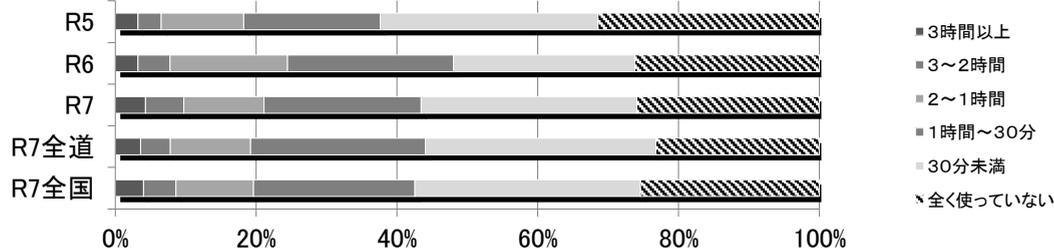
27 地域や社会をよくするために何かしてみたい。



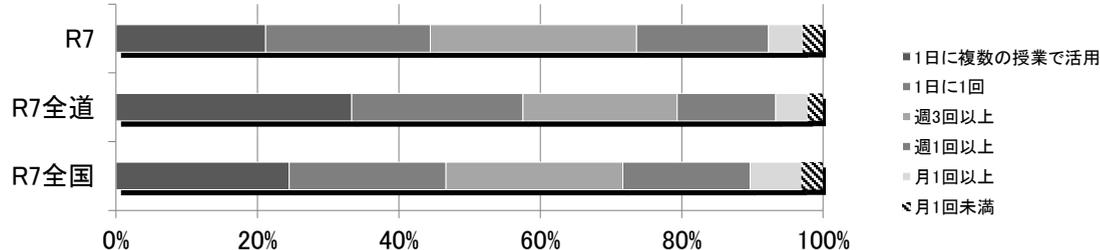
ICTの活用

【考察】 「ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成する」「ICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進める」に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っている。日常的にICTを活用する場面が増えたことや、効果的なICTツールの活用が図られてきた成果だとうかがえる。今後も、児童の資質・能力の育成や、教科のねらいを達成するための一つの手立てとして、児童がICT機器を効果的に活用できるような学習環境の整備、指導方法の工夫が必要である。

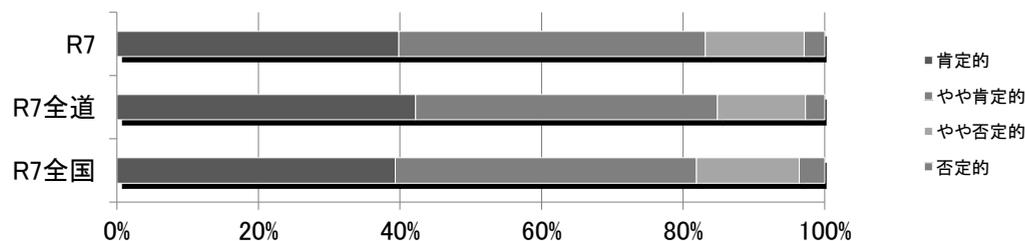
18 普段（月～金）、1日にスマホやコンピュータ等のICT機器を勉強のために使用する時間。



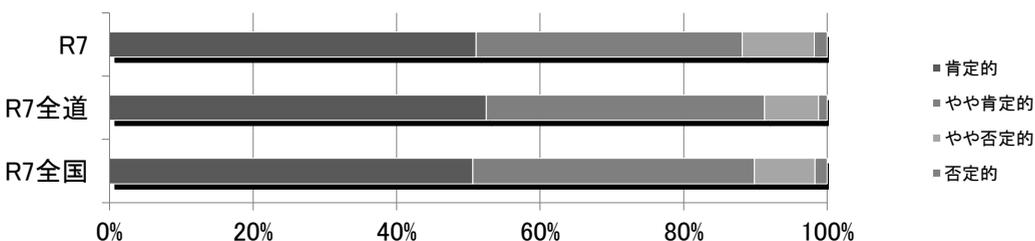
28 5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用した割合。（項目の内容変更）



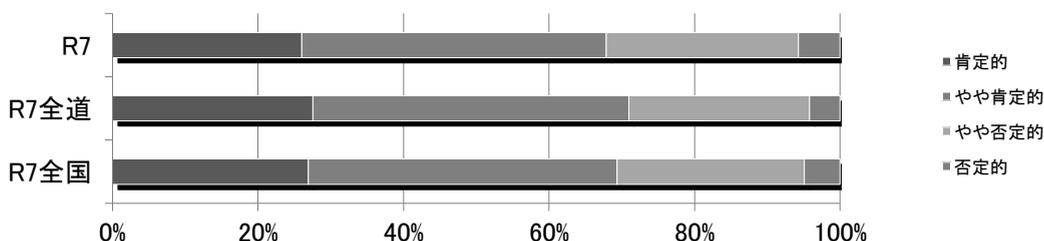
29-1 PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる。（新設問）



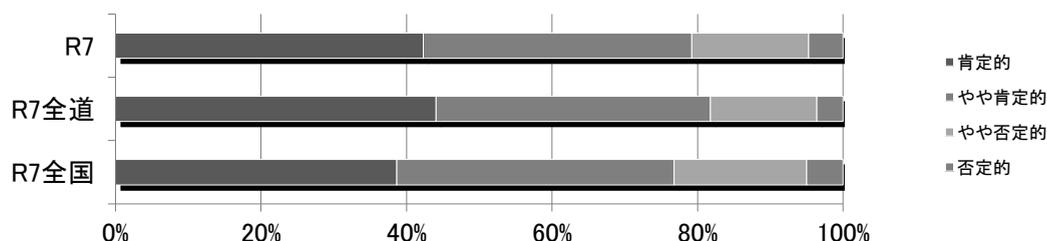
29-2 インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる。（新設問）



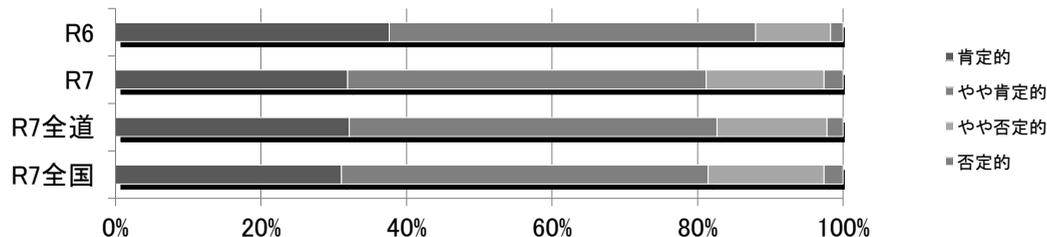
29-3 PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。（新設問）



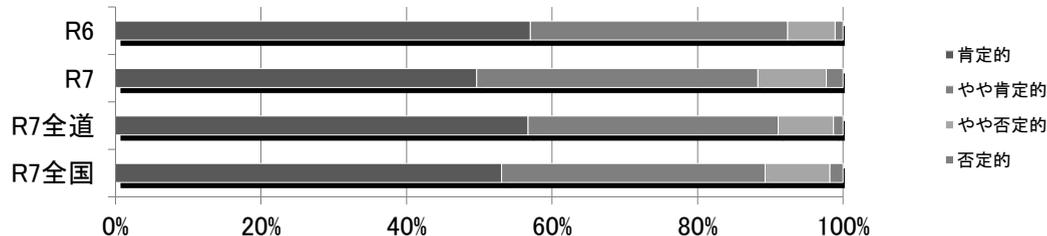
29-4 PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。（新設問）



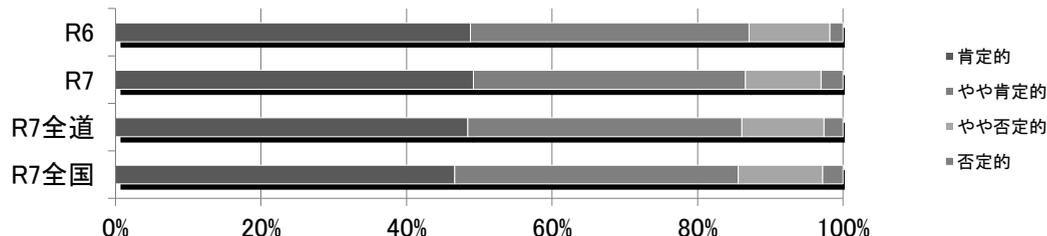
30-1 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができた。



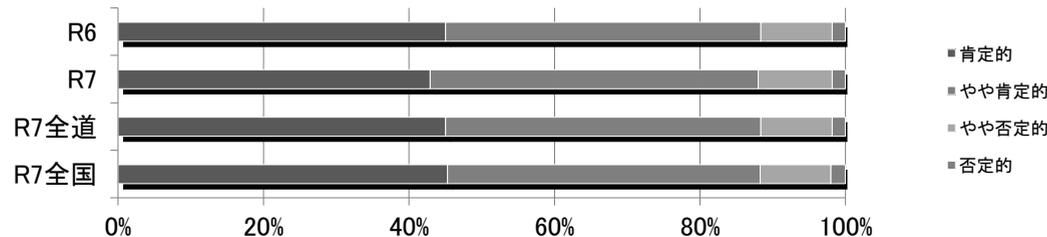
30-2 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、分からないことがあった時に、すぐ調べることができた。



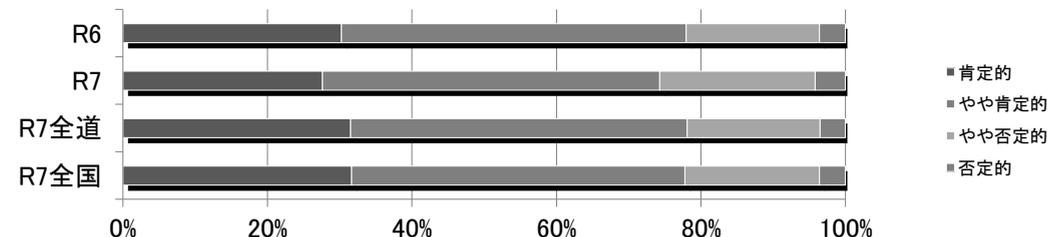
30-3 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、楽しみながら学習を進めることができた。



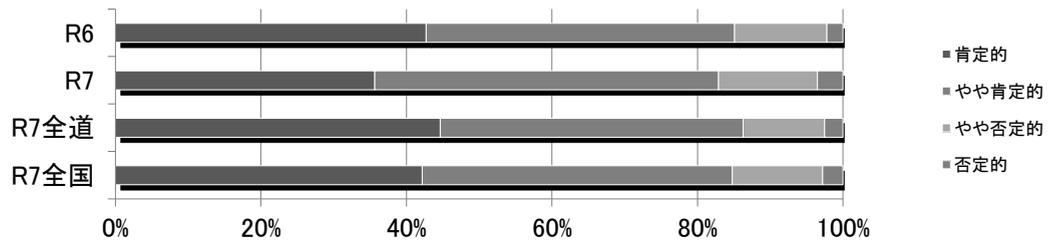
30-4 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かっていった。



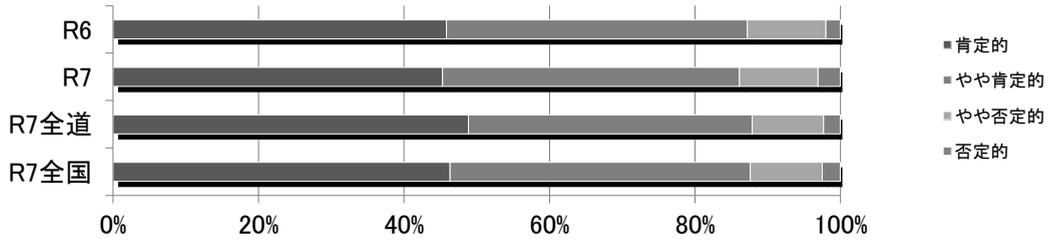
30-5 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができていた。



30-6 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり
 比べたりしやすくなっていた。



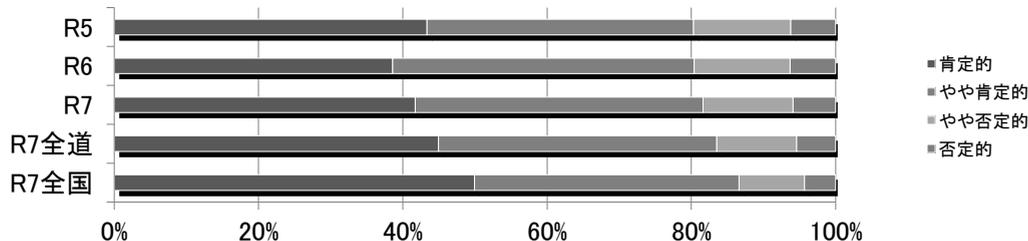
30-7 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と協力しながら学習を進める
 ことができていた。



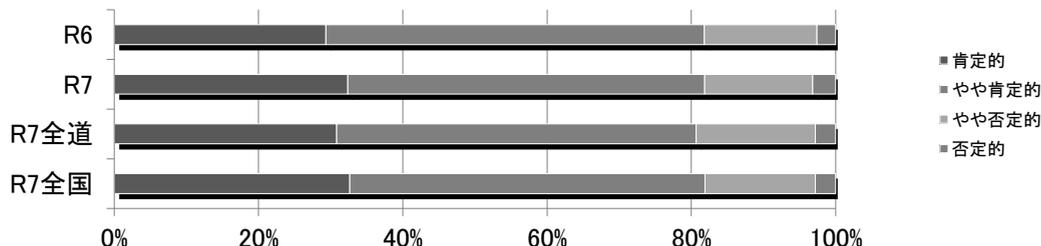
学校生活

【考察】「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っている。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」の設問についても同様の結果が見られることから、各教科等において個別最適な学びや協働的な学びが充実してきたことがうかがえる。今後も苫小牧市の授業改善策の推進により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を継続していくことが求められる。

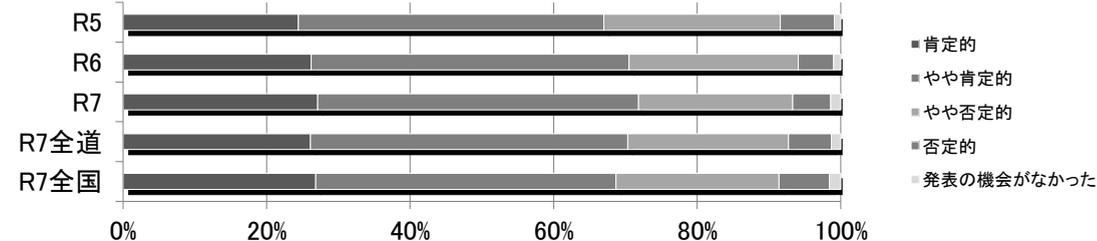
12 学校に行くのは楽しい。



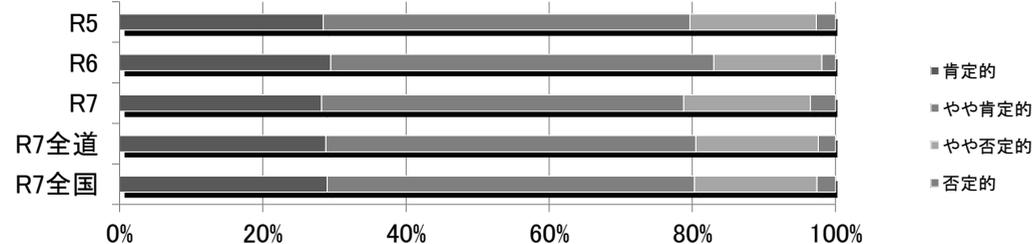
16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。



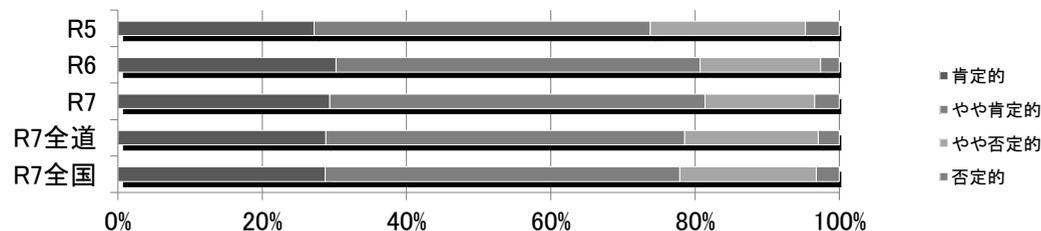
31 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



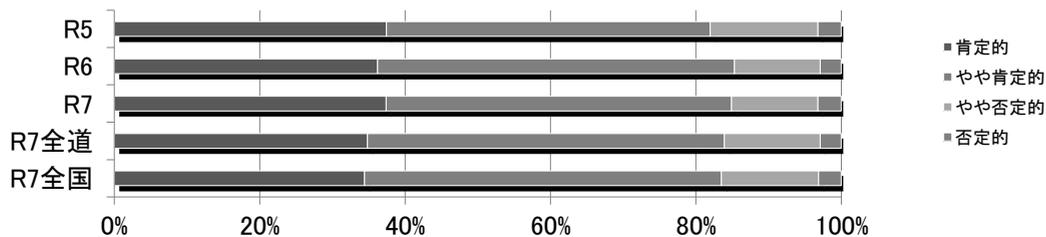
32 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



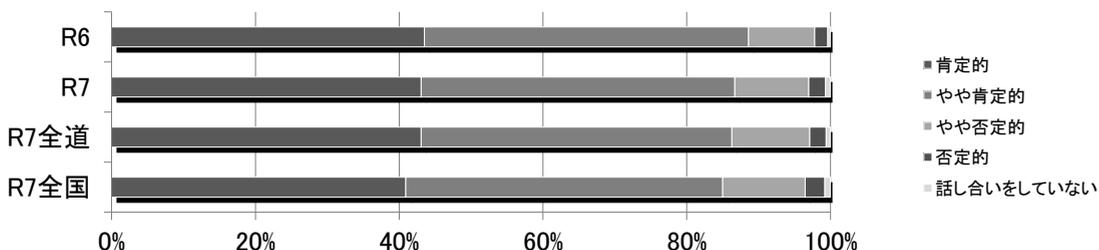
33 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



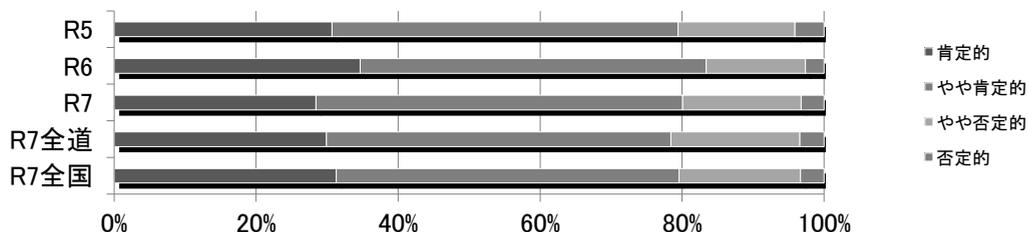
34 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



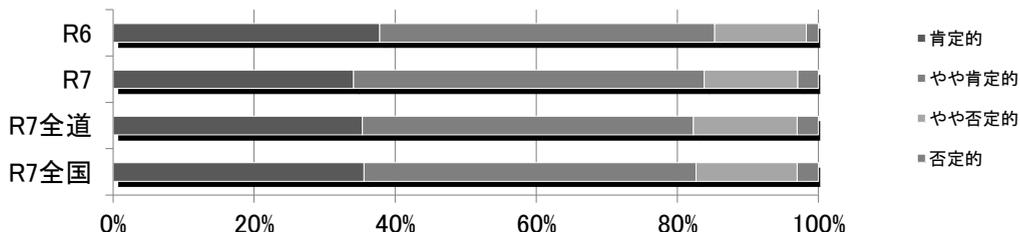
35 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。



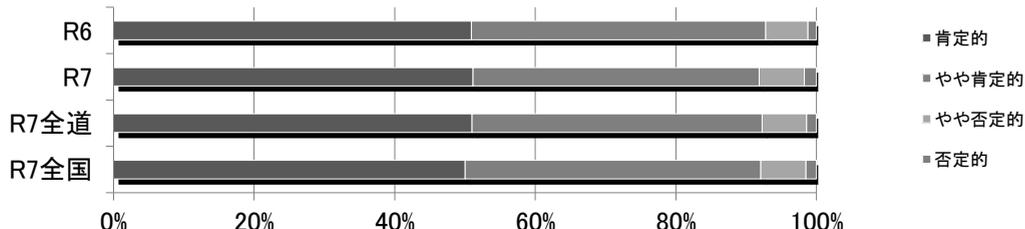
36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。



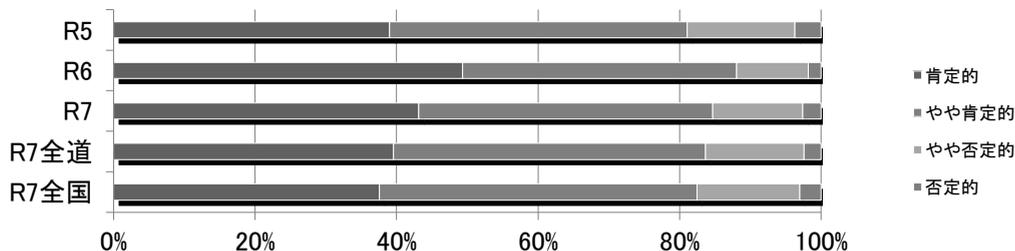
37 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。



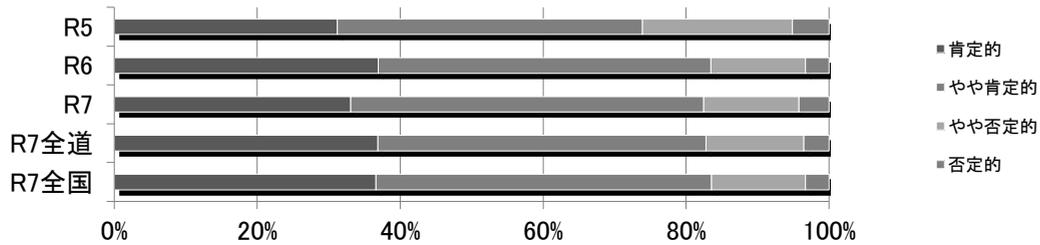
39 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。



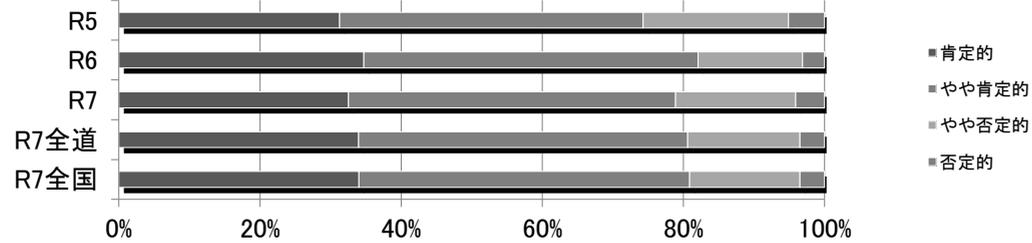
40 総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



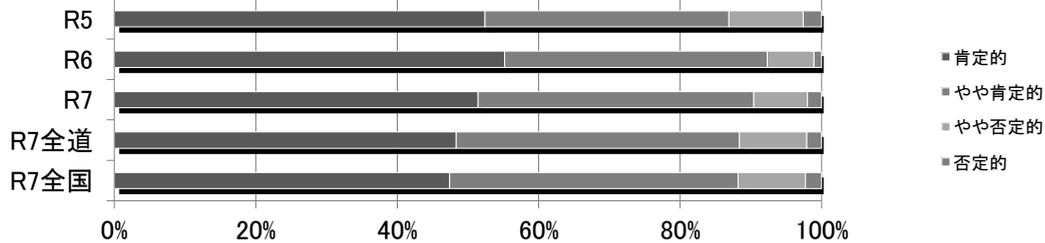
41 学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



42 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

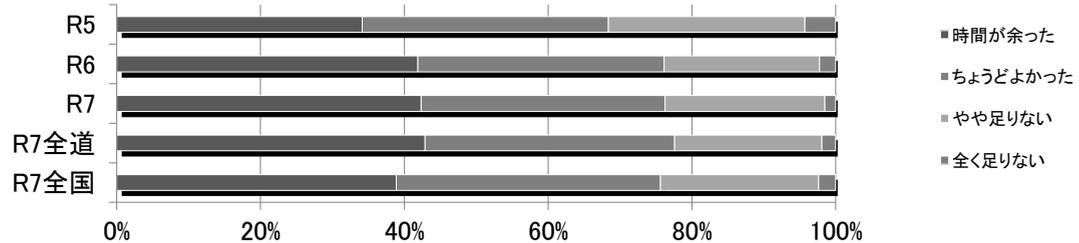


43 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

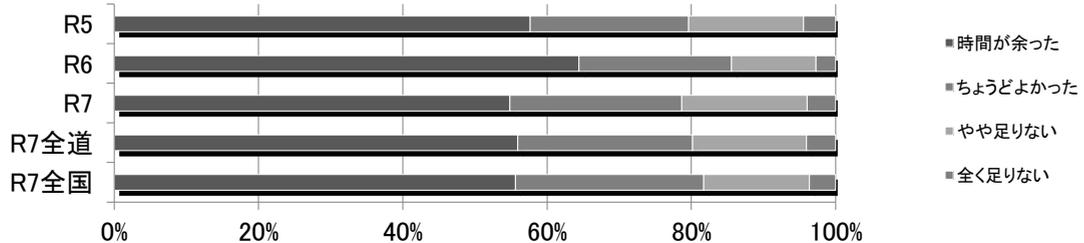


調査問題の解答時間

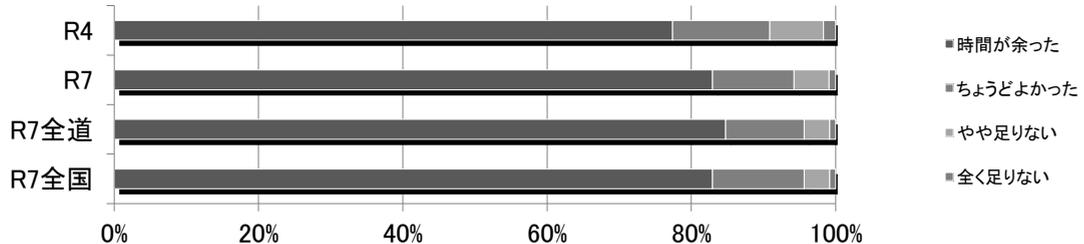
国(2) 調査問題 (国語) の解答時間は十分だった。



算(2) 調査問題 (算数) の解答時間は十分だった。



理(2) 調査問題 (理科) の解答時間は十分だった。



令和7年度全国学力・学習状況調査生徒質問（中学3年生徒）調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

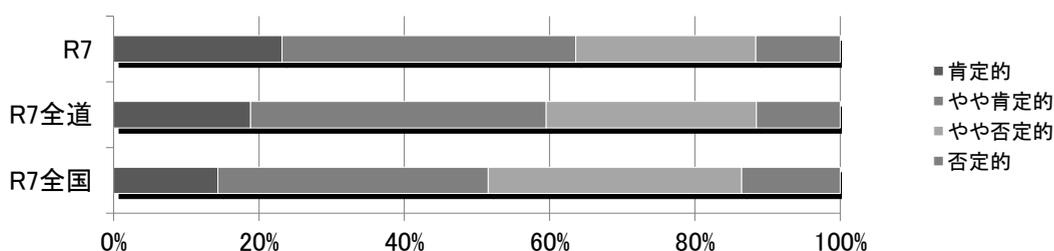
中学3年生徒

- ①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
- ②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
- ③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
- ④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

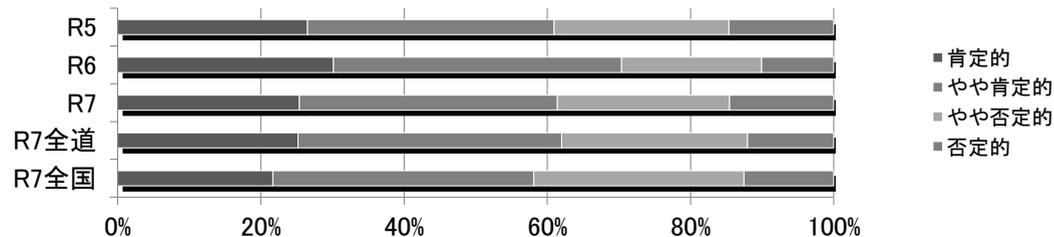
学習に対する興味・関心等 （国語）

【考察】 ほぼすべての設問において、肯定的に回答した割合が全国平均と同等または上回っている。特に、「国語の勉強は得意」「国語の勉強は好き」回答した生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。しかし、文章を書く問題に対する粘り強さは全国平均を下回っており、その結果平均正答率にも影響が見られる。今後も、日常的に言語活動をより充実させ、書く力を高める手立てを講じていく必要がある。

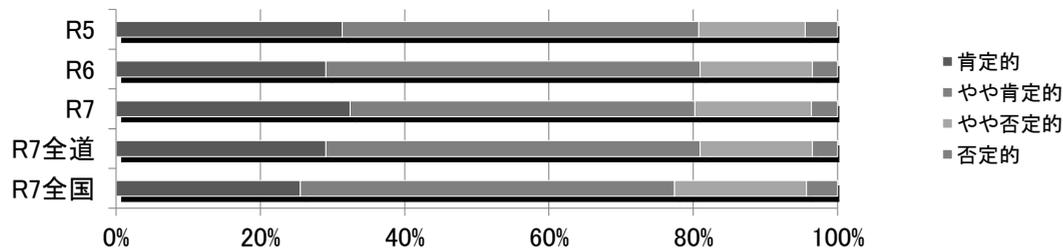
44 国語の勉強は得意。（新設問）



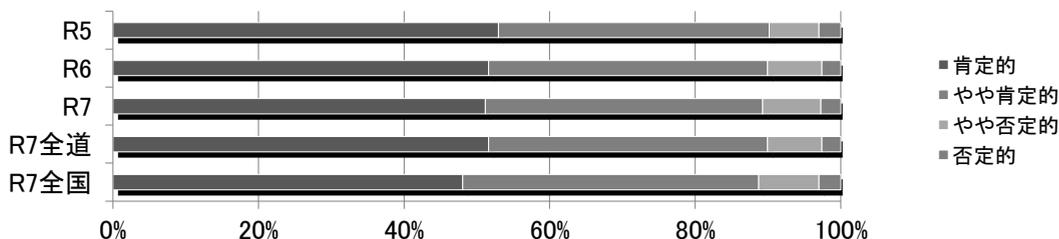
45 国語の勉強は好き。



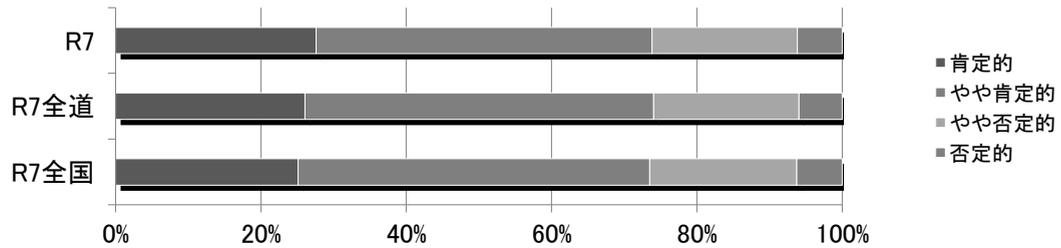
46 国語の授業の内容はよく分かる。



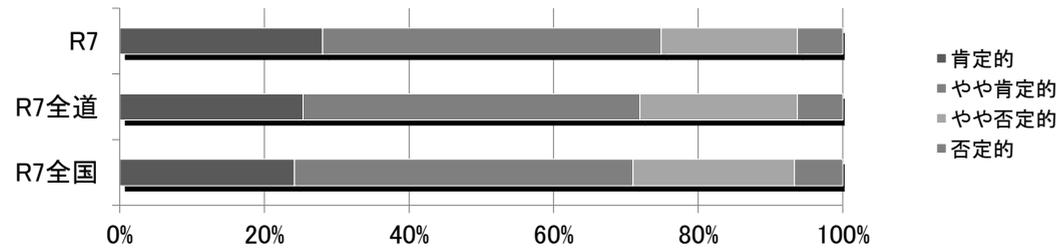
47 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



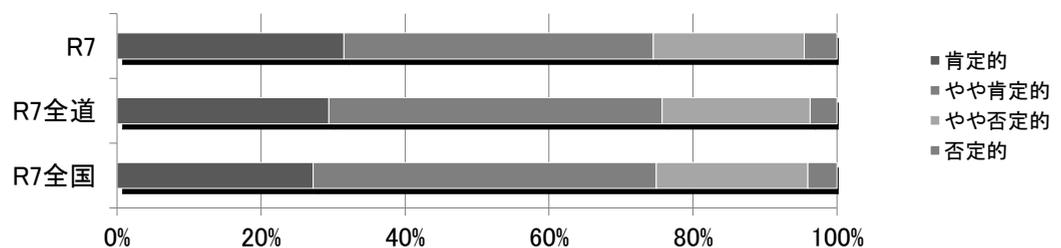
48 国語の授業で、先生は、自分の良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。(新設問)



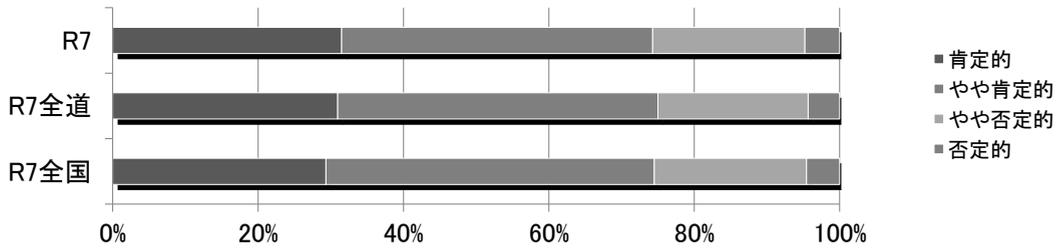
49 国語の授業で、先生は、学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるよくなるかを教えてくれる。(新設問)



50 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている。(新設問)

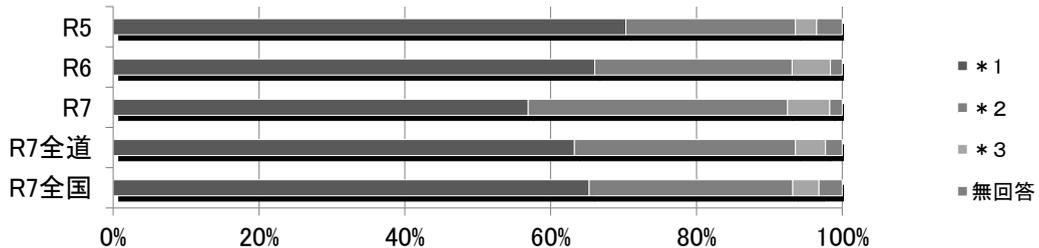


51 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている。(新設問)



国(1) 今回の国語の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

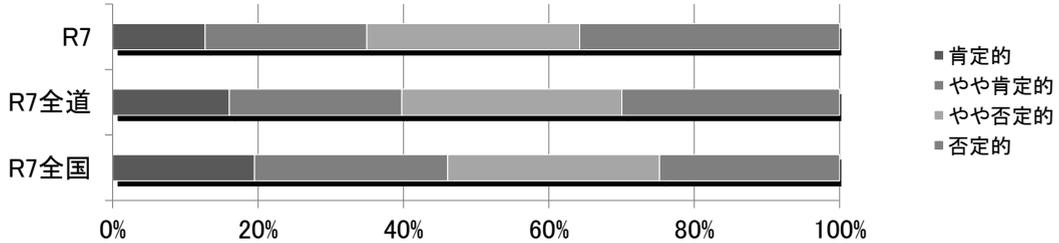
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



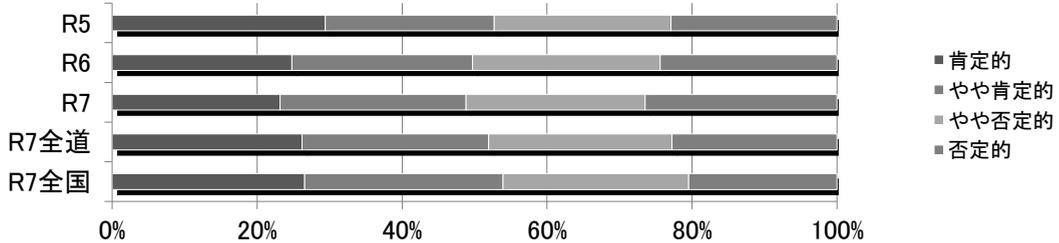
**学習に対する興味・関心等
(数学)**

【考察】 すべての設問において、肯定的に回答した割合が全国平均を下回っている。「数学の勉強は将来役に立つ」「わからないときはあきらめずに考える」の設問に対して肯定的に回答している生徒がいずれも70%を超えていることから、数学を学ぶ必要感、必要性に対する意識は高いといえる。しかし、「数学の勉強は好き」「数学の授業の内容はよく分かる」については、肯定的な回答が過去3年間を通じて減少傾向にあることから、生徒が数学に対して関心を高め、主体的に学びながら資質・能力を高められるよう授業改善を進めていくことが求められる。

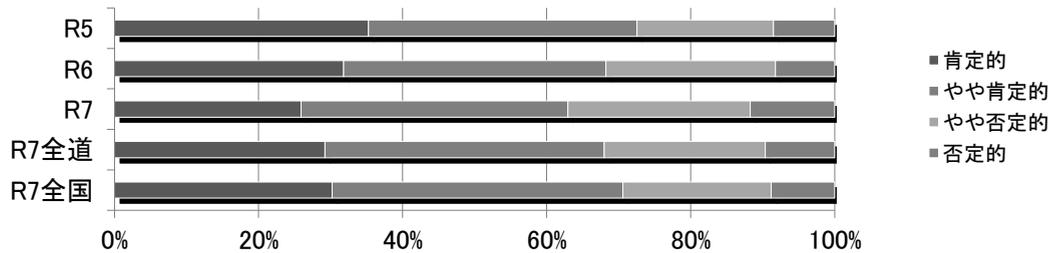
52 数学の勉強は得意。(新設問)



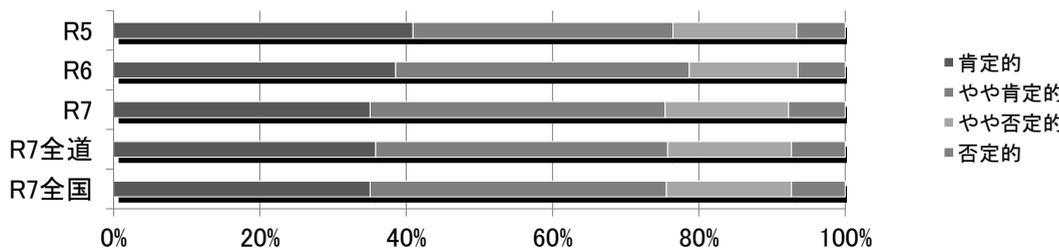
53 数学の勉強は好き。



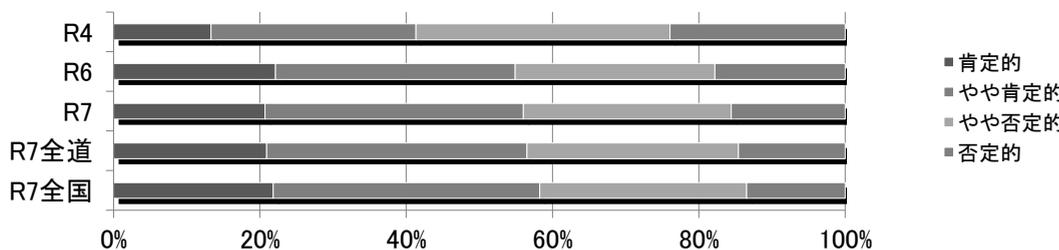
54 数学の授業の内容はよく分かる。



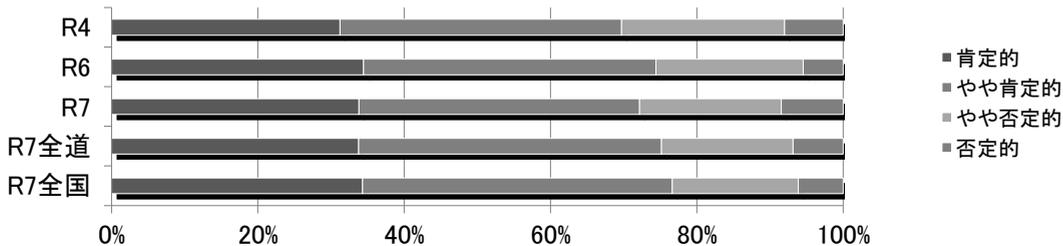
55 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



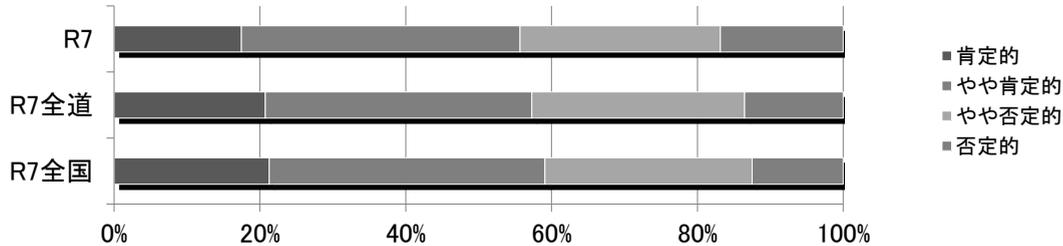
56 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。



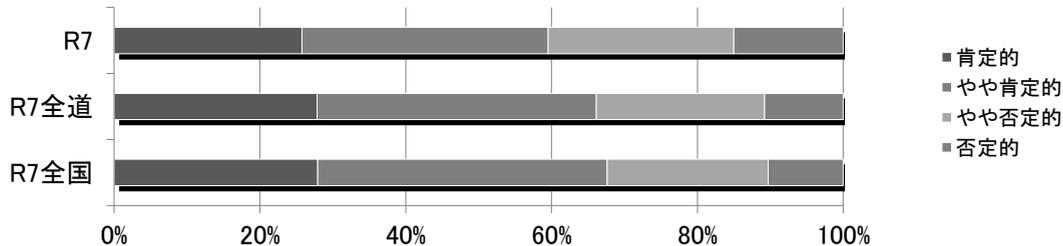
57 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



58 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。(新設問)

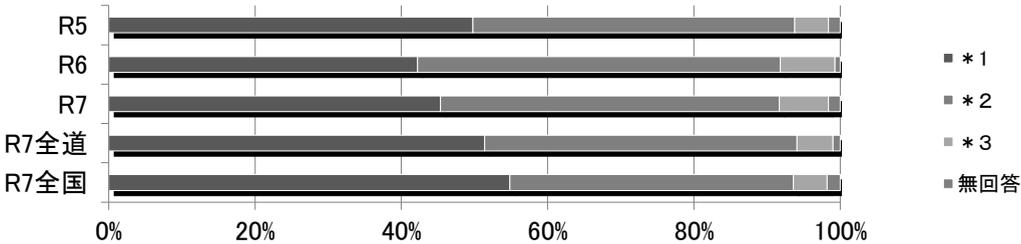


59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる。(新設問)



数(1) 今回の数学の問題について、言葉や数、式を使って説明する問題でどのように解答したか。

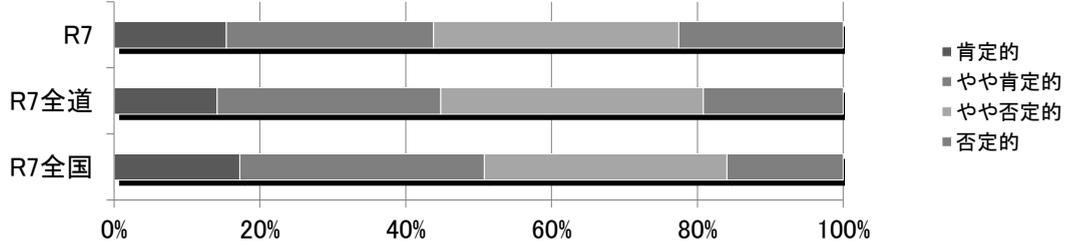
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



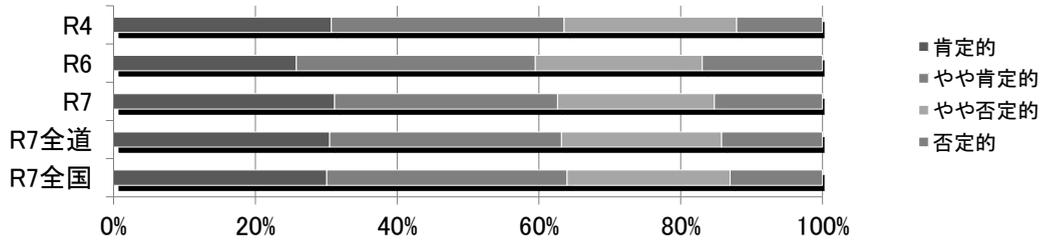
**学習に対する興味・関心等
(理科)**

【考察】 「理科の勉強は好き」「理科の授業はよく分かる」に対して肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を上回っている。一方で、「理科の授業では、観察や実験をよく行っている」では肯定的な回答に大きな差があることから、身に付けるべき資質・能力に応じて適切に観察・実験を位置付けていくことが求められる。また、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と考える生徒が60%程度であることから、今後も理科を学ぶ意義や必要感を生徒が感じられるような授業づくりが必要である。

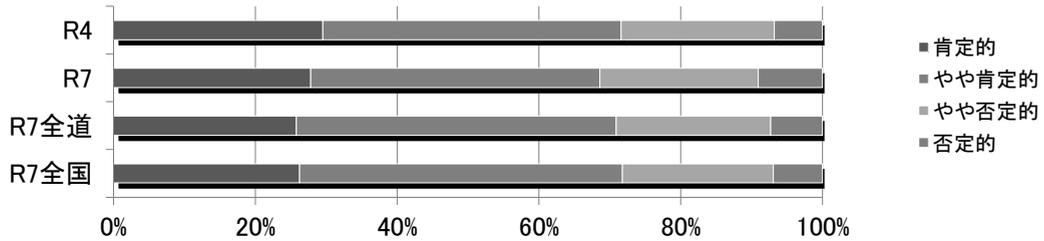
60 理科の勉強は得意。(新設問)



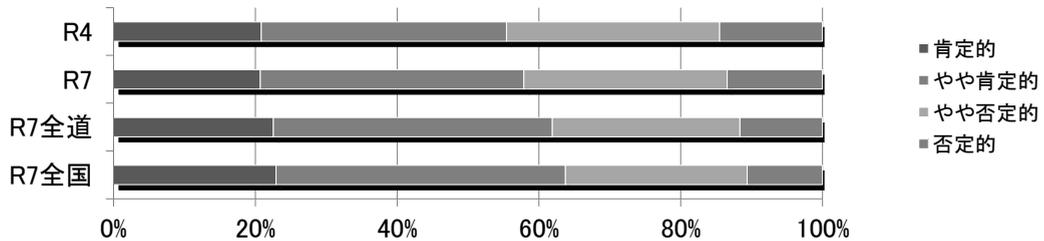
61 理科の勉強は好き。



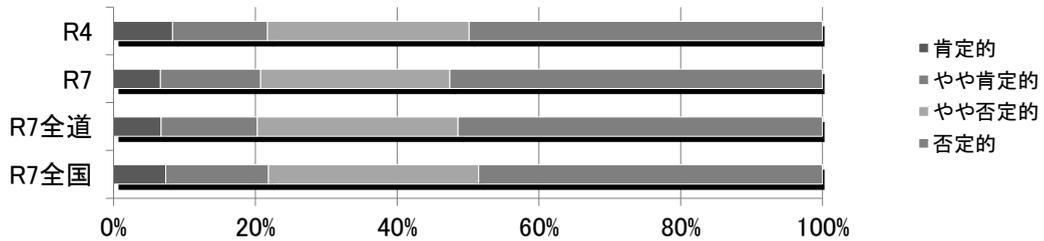
62 理科の授業の内容はよく分かる。



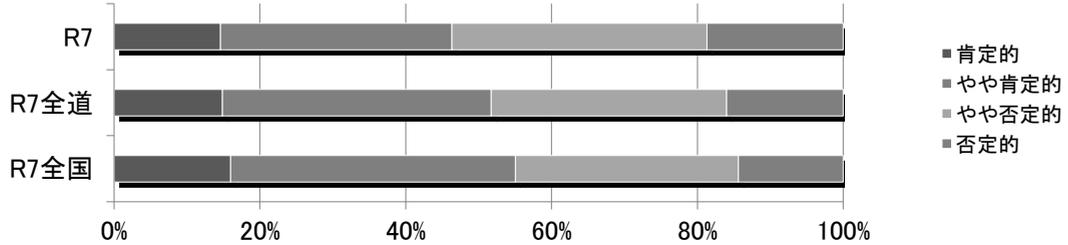
63 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



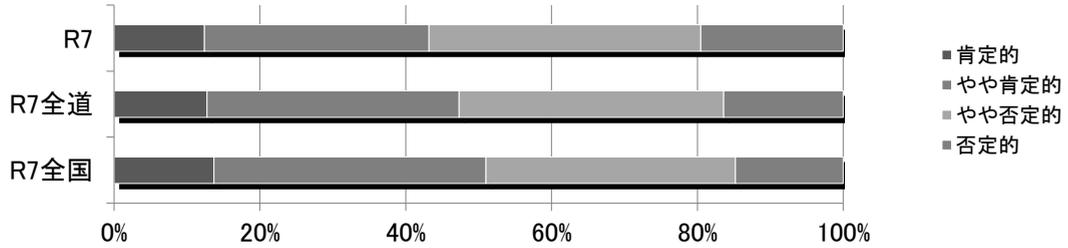
64 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思う。



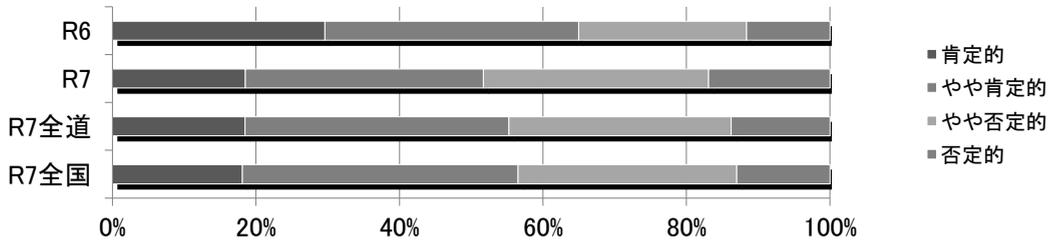
65 理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用している。（新設問）



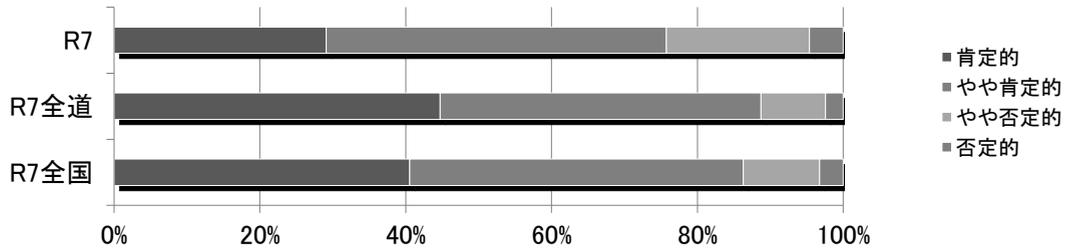
66 理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できている。（新設問）



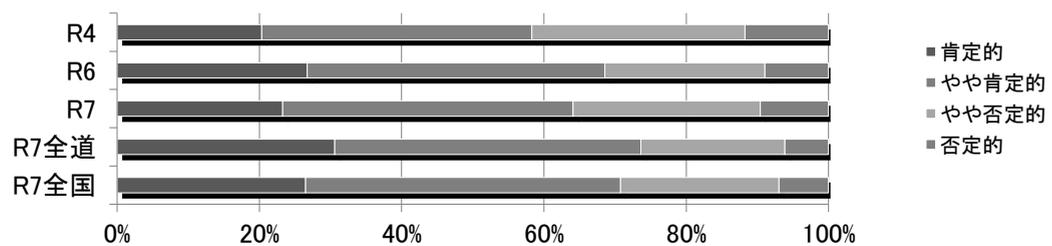
67 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。



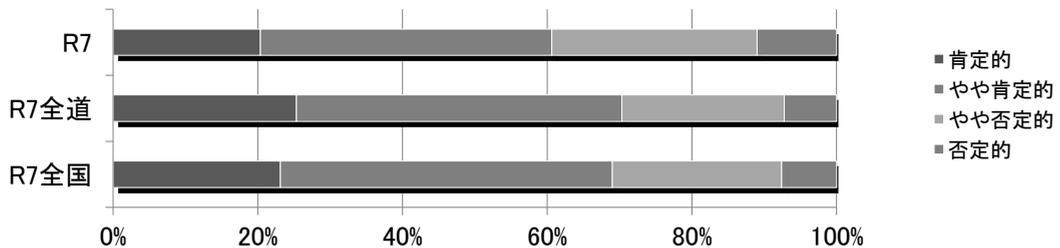
68 理科の授業では、観察や実験をよく行っている。（新設問）



69 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



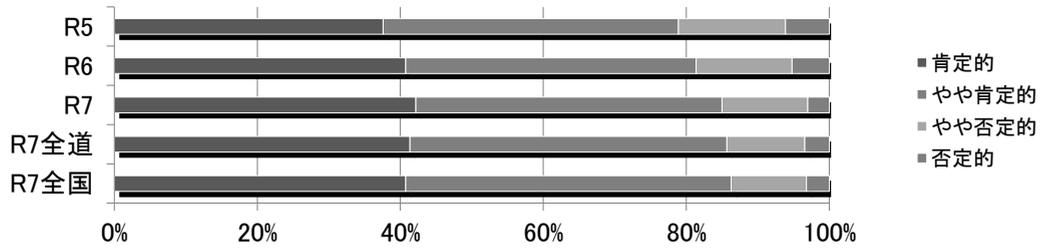
70 理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っている。（新設問）



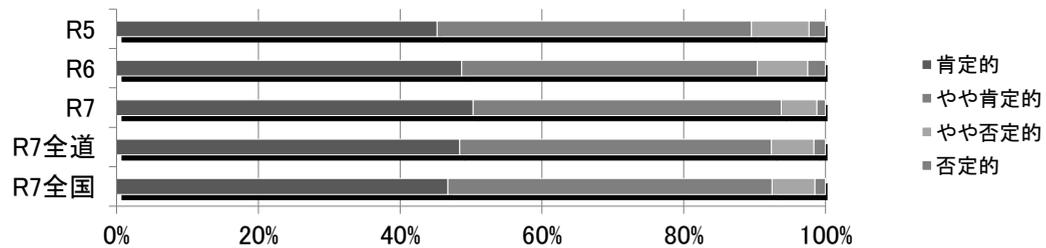
規範意識・自己有用感

【考察】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している割合が令和5年度より減少傾向にある。引き続き、学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実に取り組むとともに、「苦小牧市いじめ防止基本方針」や、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組を一層充実させる必要があるとうかがえる。一方で、「自分には、よいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」に対して肯定的な回答をした生徒が全国平均を上回っている。家庭や学校が生徒一人ひとりにしっかりと向き合っていることが自己有用感の高さにつながっているとうかがえる。

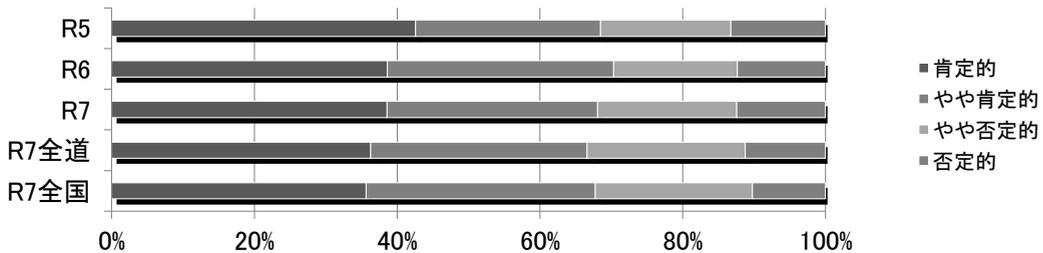
5 自分には、よいところがあると思う。



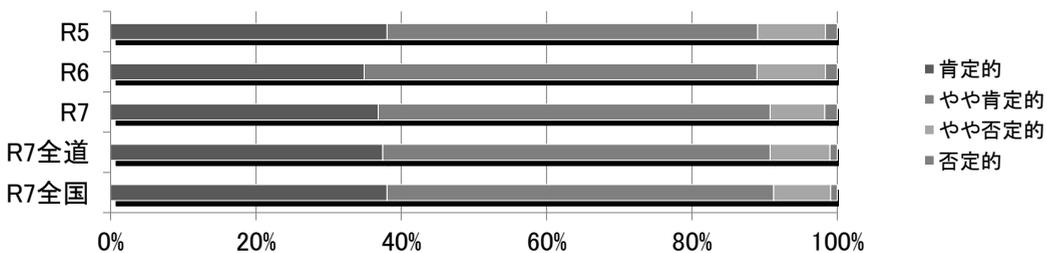
6 先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。



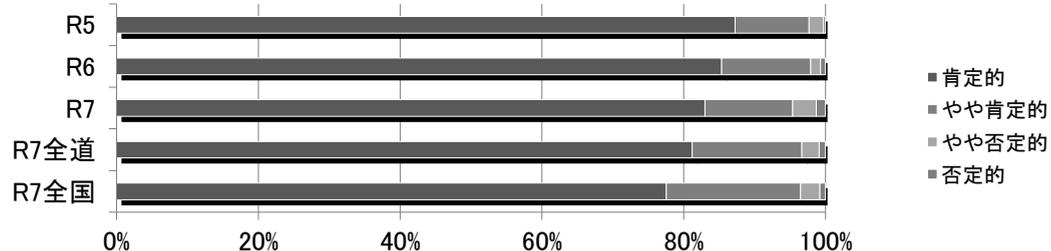
7 将来の夢や目標を持っている。



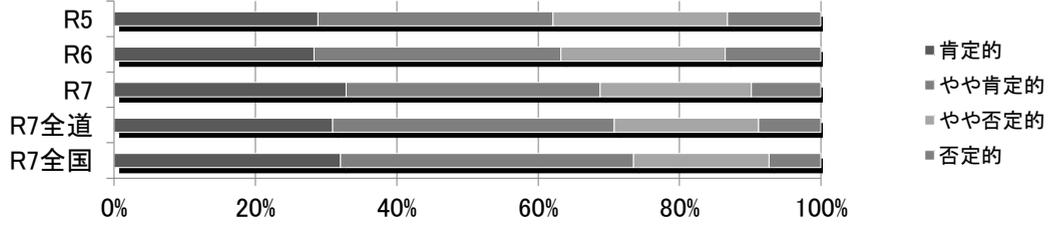
8 人が困っているときは、進んで助けている。



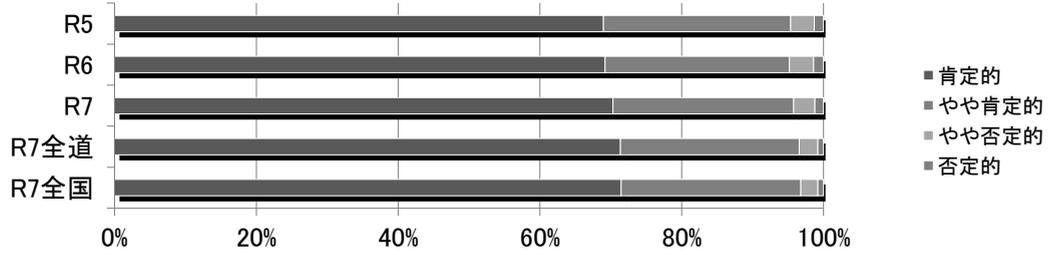
9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



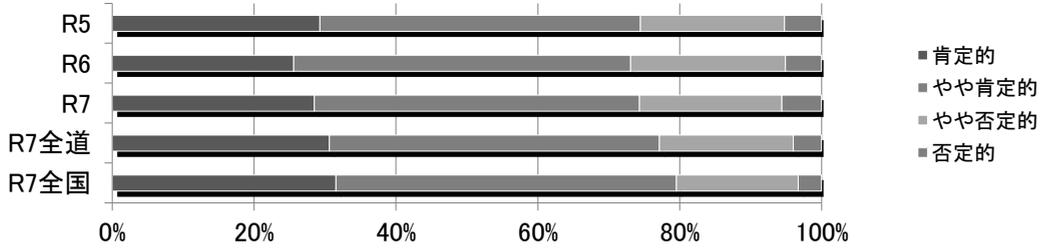
10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



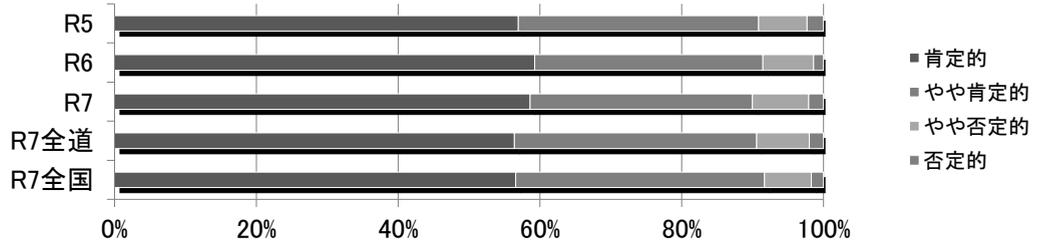
11 人の役に立つ人間になりたいと思う。



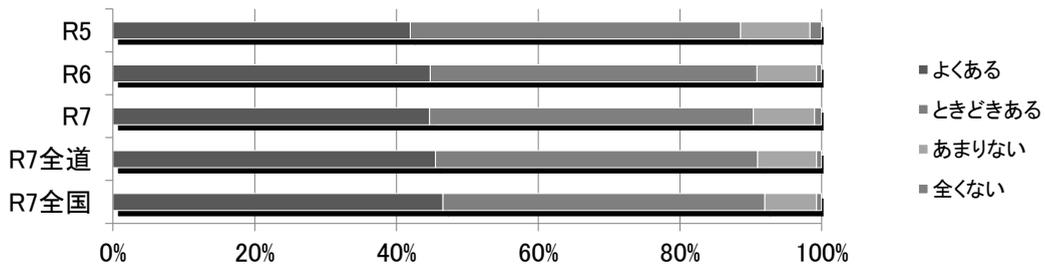
13 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



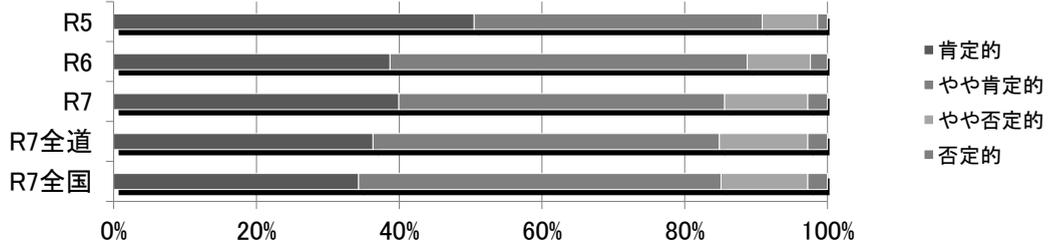
14 友達関係に満足している。



15 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。



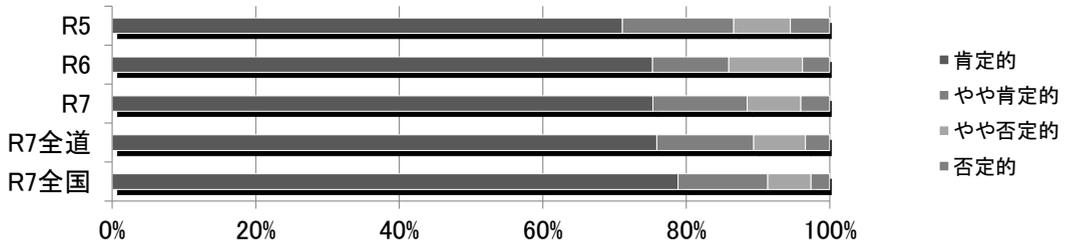
38 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。



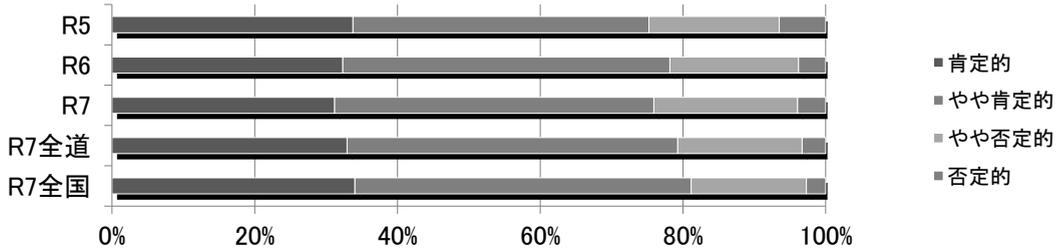
生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心

【考察】 普段（月～金）、休み（土日等）の1日当たりの学習時間が減少傾向にある。「朝食を毎日食べる」や安定した起床就寝時間については全国平均と大差がないことから、生徒の日々の時間の使い方について見つめ直す必要があるとかがえる。家庭と連携して、生徒が節度をもった生活習慣を身に付けられるように支援するとともに、学校全体の共通理解のもとに家庭学習の成果の点検・評価の仕方等を工夫し、生徒の自主的・自発的な取組を促していく必要がある。

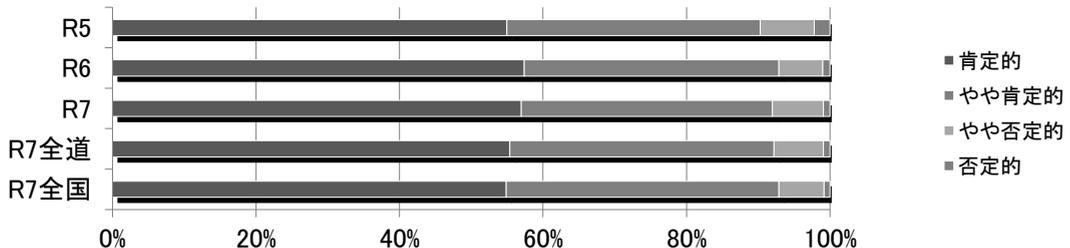
1 朝食を毎日食べている。



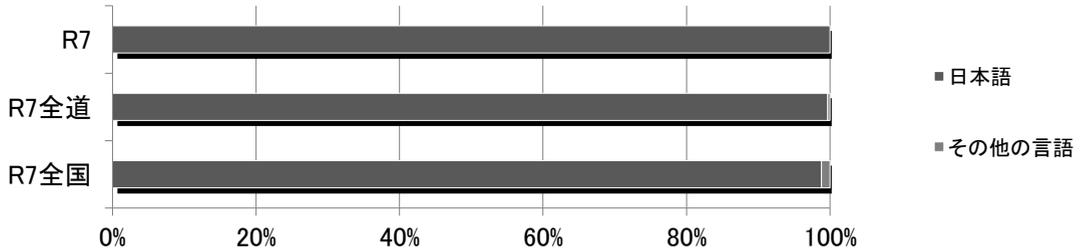
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



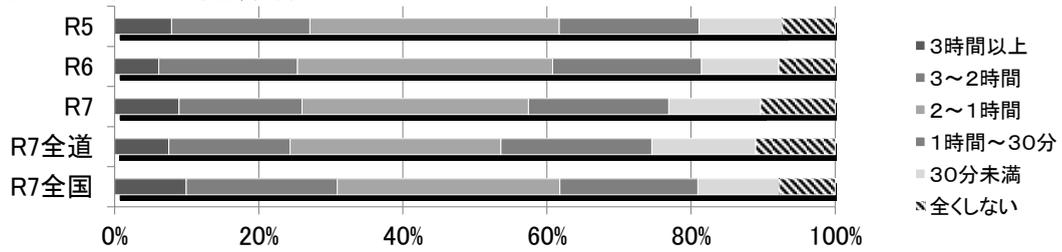
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



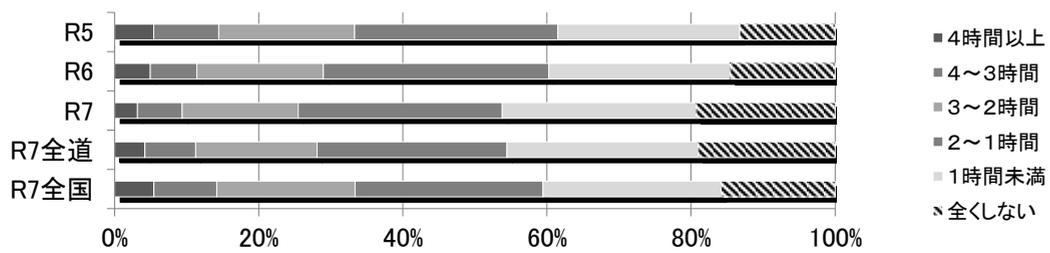
4 家で主に何語で話しているか。（新設問）



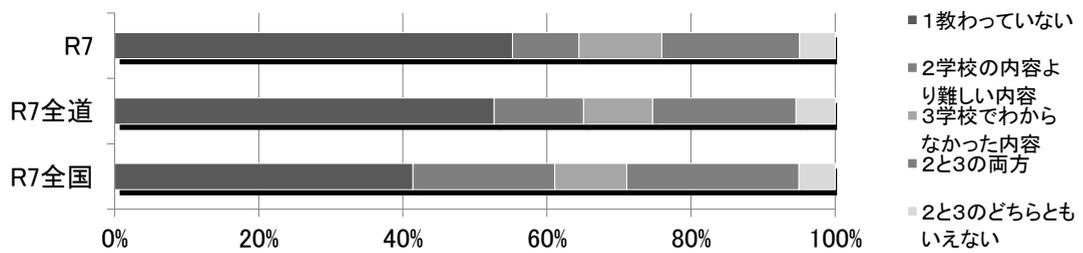
17 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



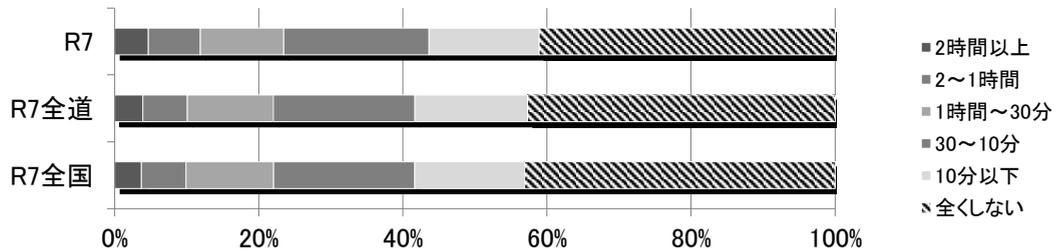
19 休み(土日等)の日の、1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



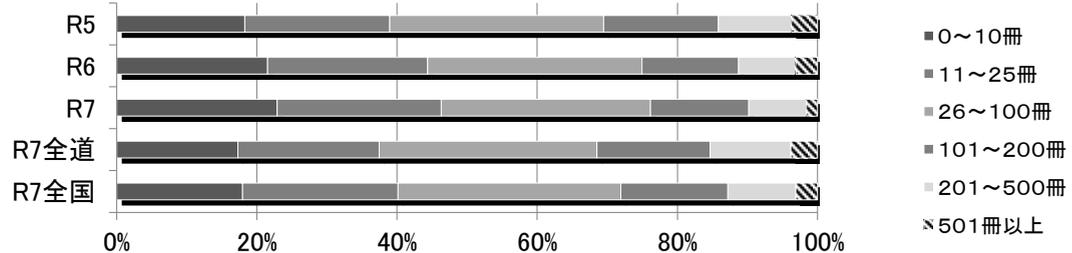
20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか。(オンライン授業の場合も含む) (新設問)



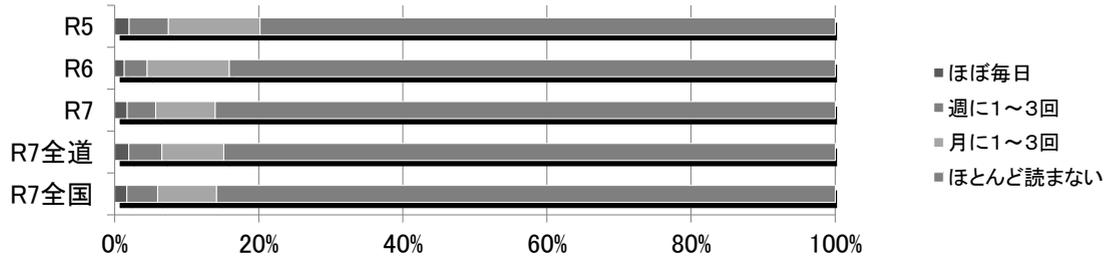
21 普段(月～金)、1日当たりの読書時間。(電子書籍は含む。教科書、参考書、漫画、雑誌は除く。) (新設問)



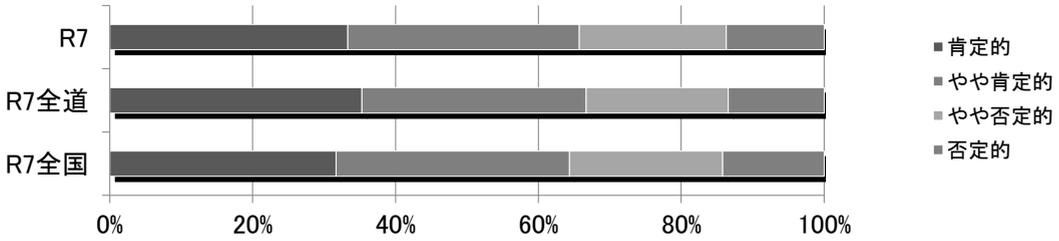
22 家にある本の冊数。(雑誌、新聞、教科書は除く)



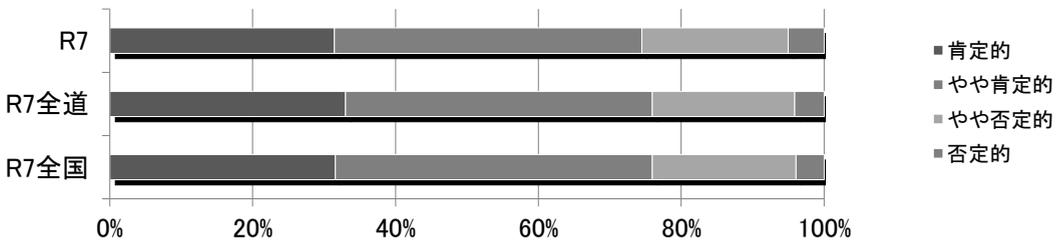
23 新聞を読んでいる。



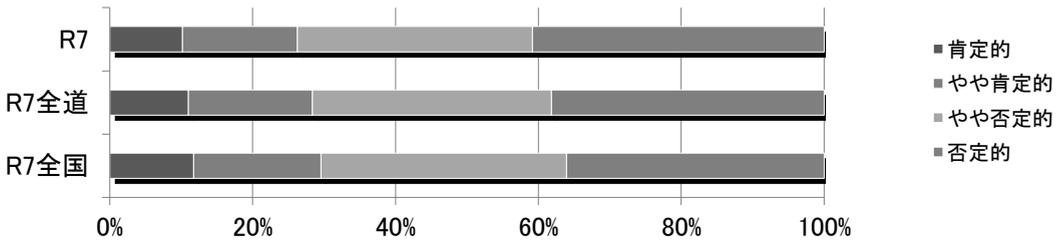
24 読書は好きか。(新設問)



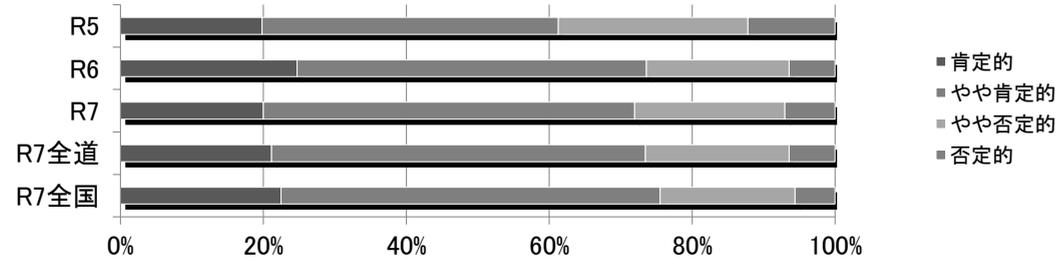
25 これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあったか。(新設問)



26 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。(習い事は除く)(新設問)



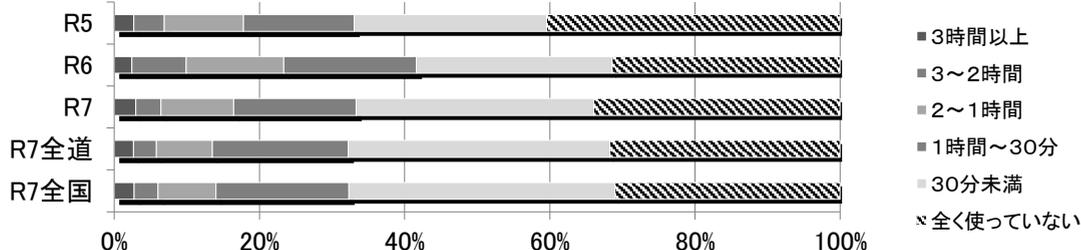
27 地域や社会をよくするために何かしてみたい。



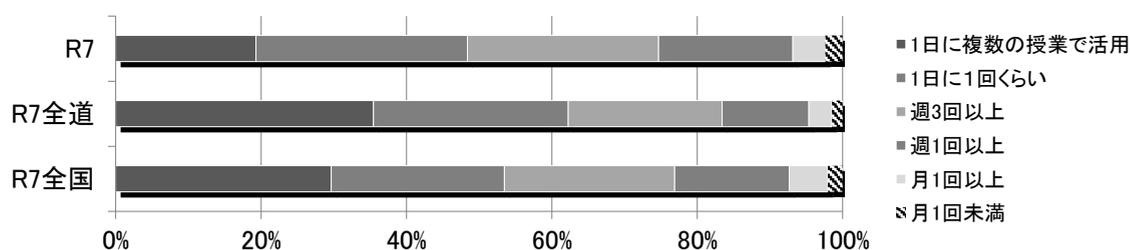
ICTの活用

【考察】 ICT機器を用いた文章の作成や情報の整理、インターネットを活用した情報収集、プレゼンテーションの作成といったICTスキルについて、肯定的な回答がいずれも全国平均を下回る結果となった。これはICT機器を授業で使用した割合が全国と比べて低いことが要因として考えられる。今、求められる学びにおいてICTの活用は不可欠である。各教科の目標を達成するために、意図的・計画的に必要なICTツールの選択、活用を図りながら生徒のICTスキルを高めていくことが求められる。

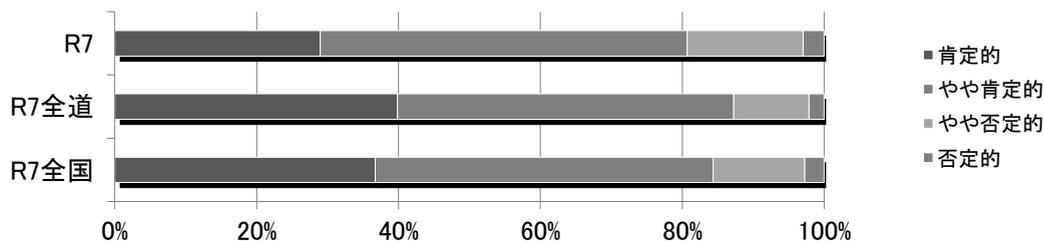
18 普段（月～金）、1日にスマホやコンピュータ等のICT機器を勉強のために使用する時間。



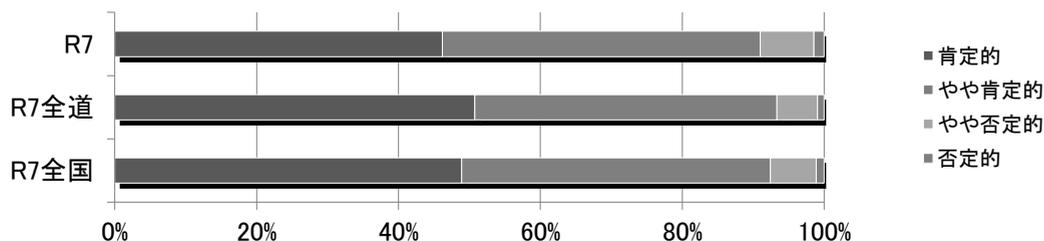
28 1、2年生のときに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用した割合。（新設問）



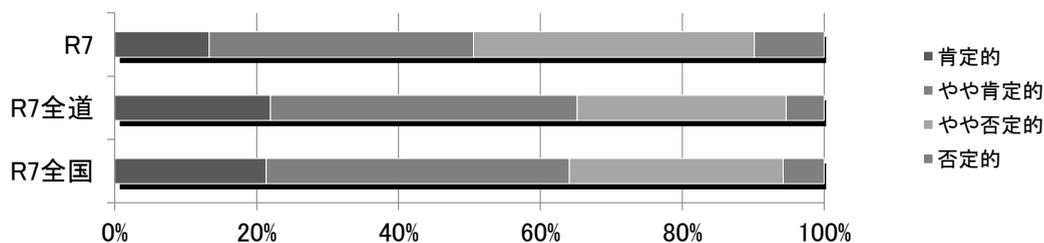
29-1 PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる。（新設問）



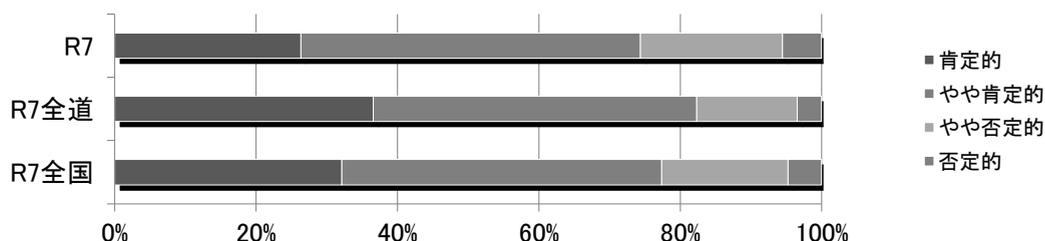
29-2 インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる。（新設問）



29-3 PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。（新設問）



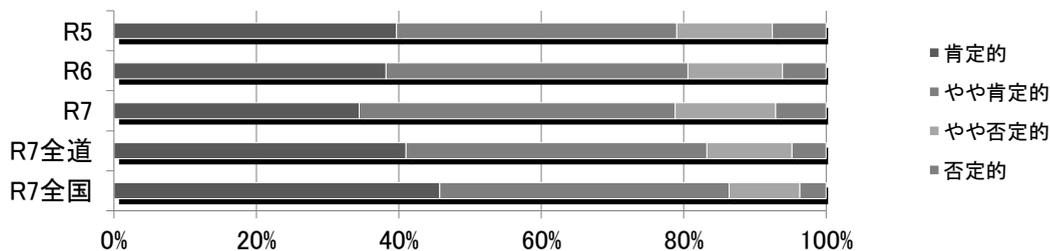
29-4 PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。（新設問）



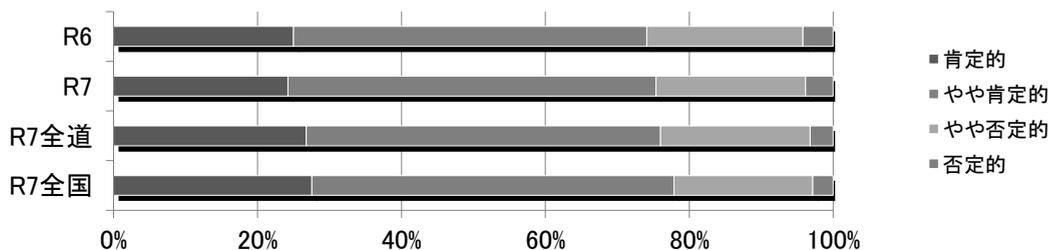
学校生活

【考察】 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」の設問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を上回っている。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」の設問についても肯定的な回答が全国平均と同程度であり、日常的に他者との協働的な学びが充実していることがうかがえる。一方で、主体的な取組に関する項目では肯定的な回答が低い傾向にあり、個々の学びも学校生活を通じて高めていくことが求められる。

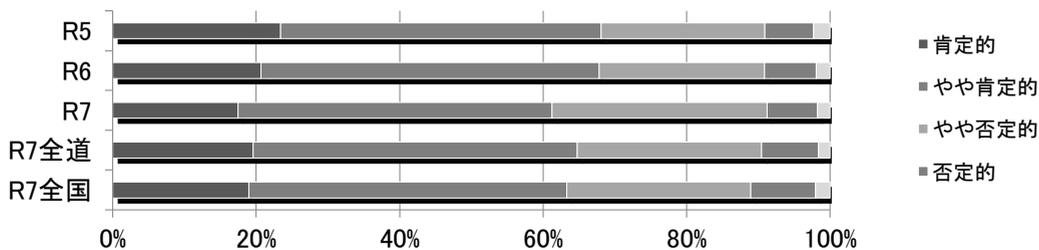
12 学校に行くのは楽しい。



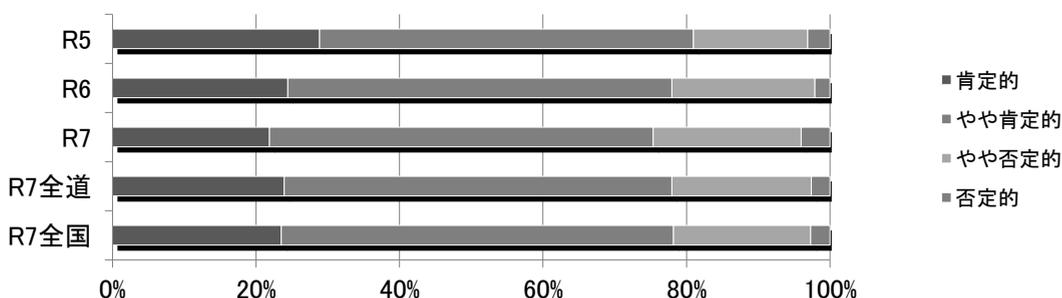
16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。



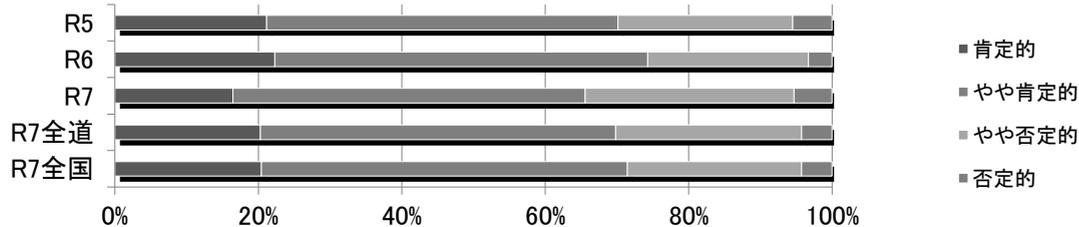
31 1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



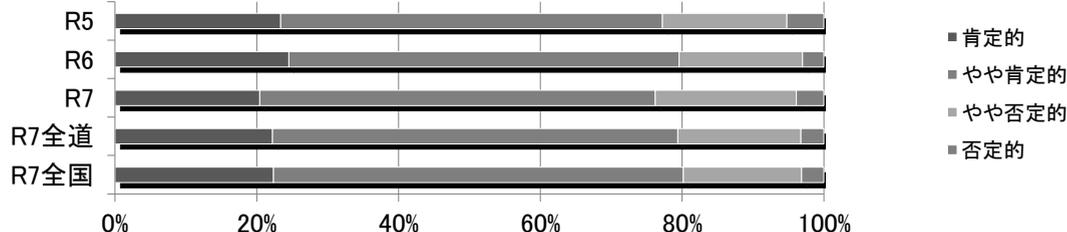
32 1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



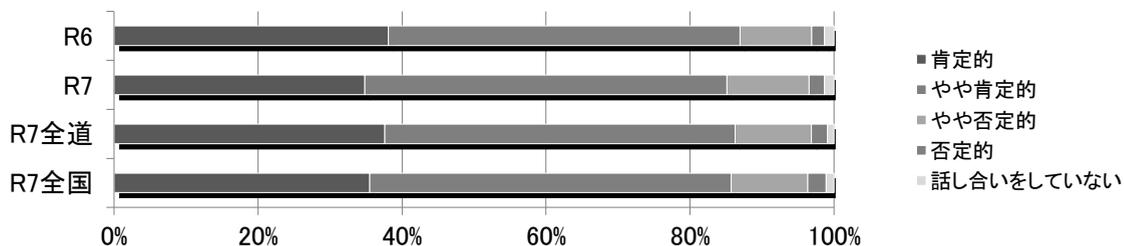
33 1、2年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



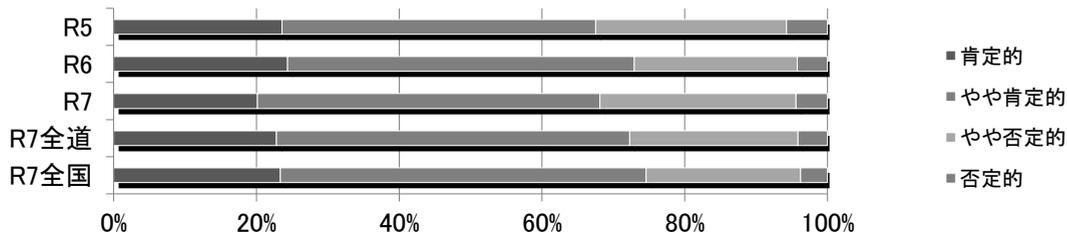
34 1、2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



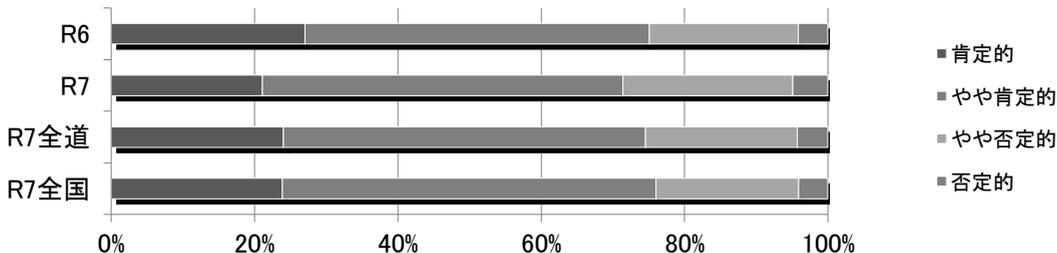
35 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。



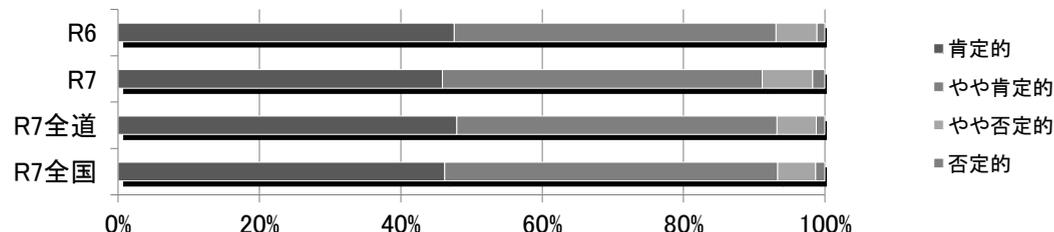
36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。



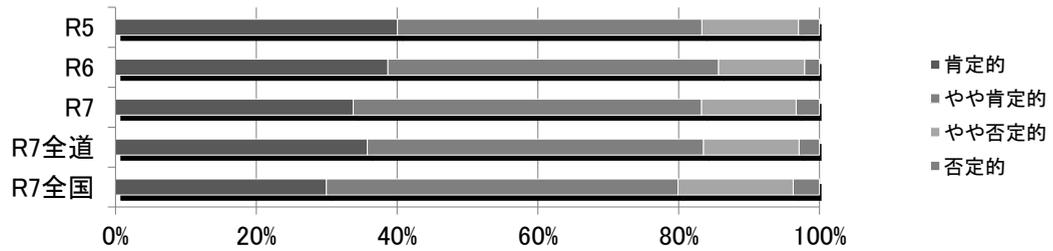
37 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。



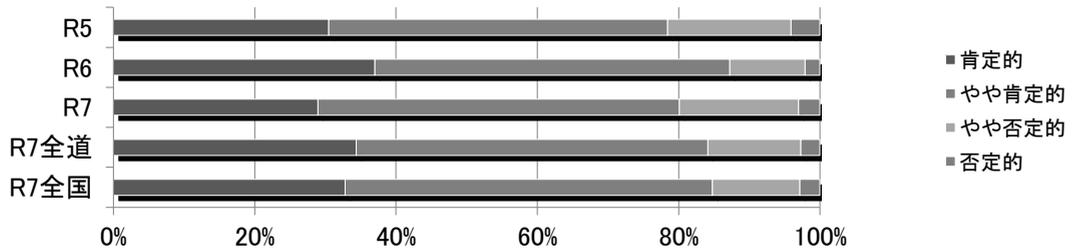
39 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。



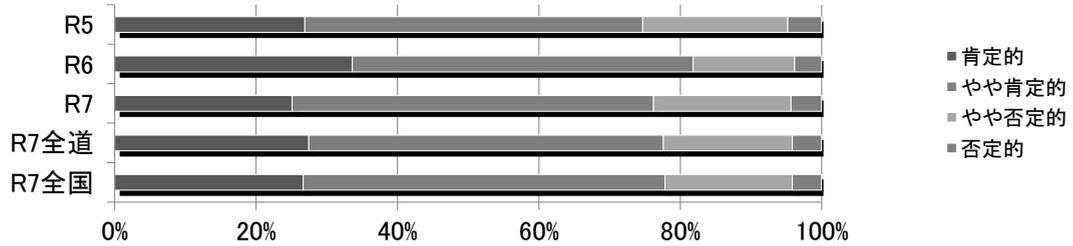
40 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



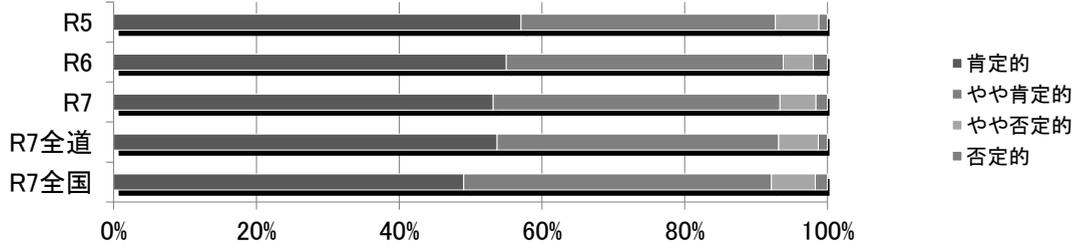
41 学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



42 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

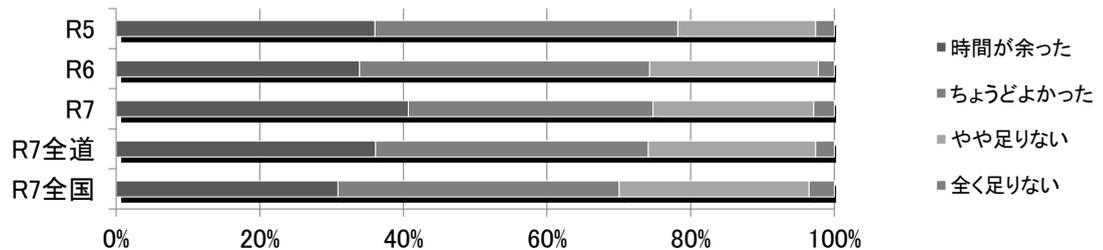


43 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

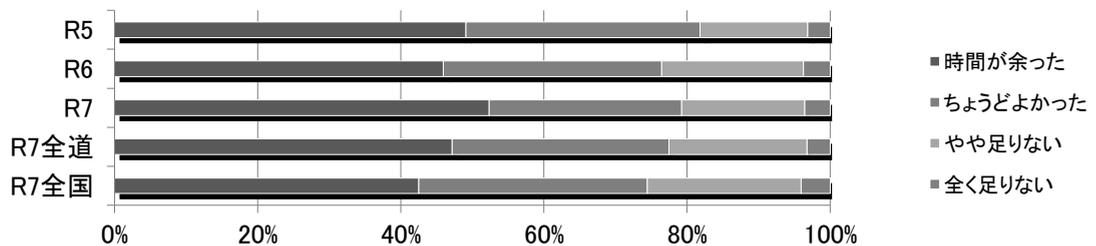


調査問題の解答時間

国(2) 調査問題 (国語) の解答時間は十分だった。



数(2) 調査問題 (数学) の解答時間は十分だった。



令和7年度全国学力・学習状況調査学校質問調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

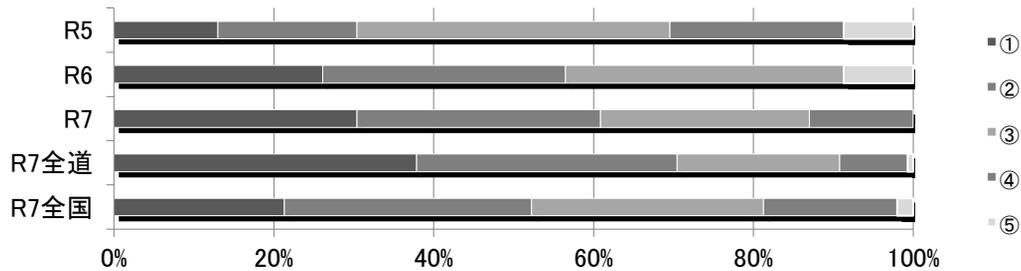
学力向上に向けた取組

〈ICTの活用〉

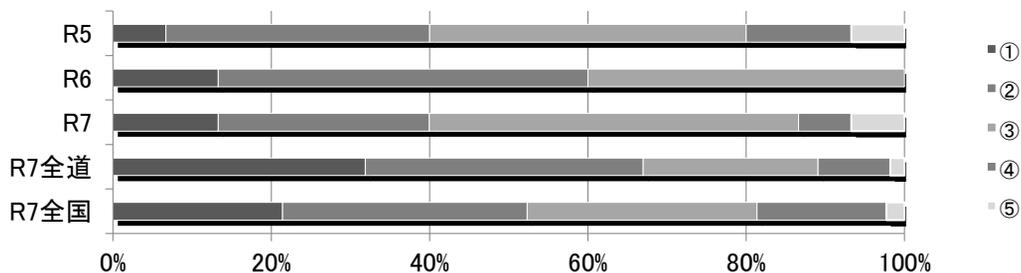
- ◆ 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

①ほぼ毎日 ②週3回以上 ③週1回以上 ④月1回以上 ⑤月1回未満

【小学校】



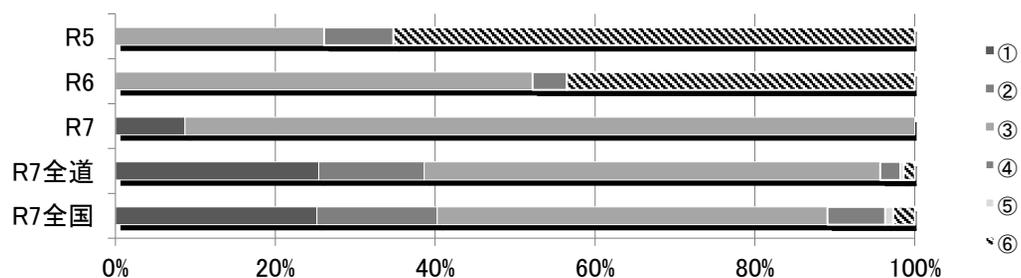
【中学校】



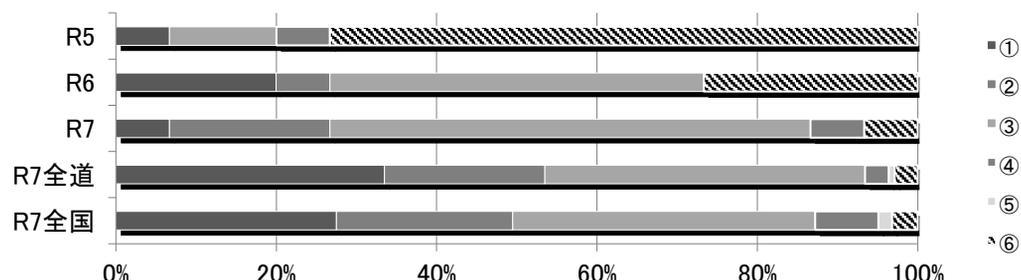
- ◆ 児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

①毎日持ち帰って、毎日利用 ②毎日持ち帰って、時々利用 ③時々持ち帰って、時々利用
④持ち帰らせていない ⑤持ち帰ってはいけない ⑥臨時休業のみ

【小学校】



【中学校】



【考察】

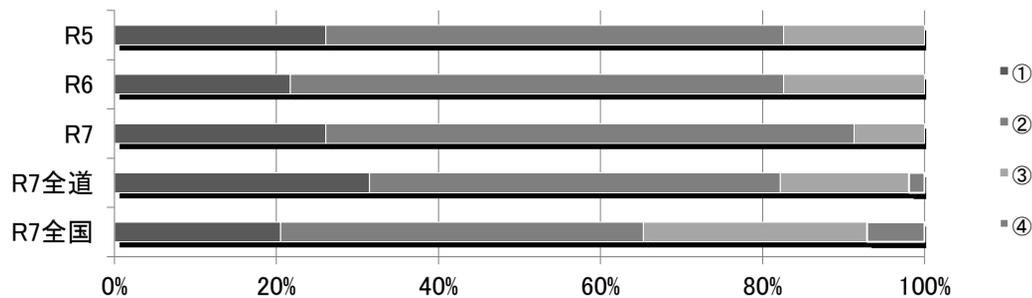
「児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の設問では、小学校において「ほぼ毎日活用している」と回答した児童の割合が全国平均を上回っており、さらに年々割合が上昇傾向にある。しかし、「どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の設問では、小・中学校ともに全国平均を下回る結果となっている。授業におけるICT機器の積極的な活用による教育的効果をさらに高めていくためにも、家庭での利用環境の充実や家庭生活と連携を図る工夫について考え、取組を推進していくことが求められる。

〈小中連携の取組〉

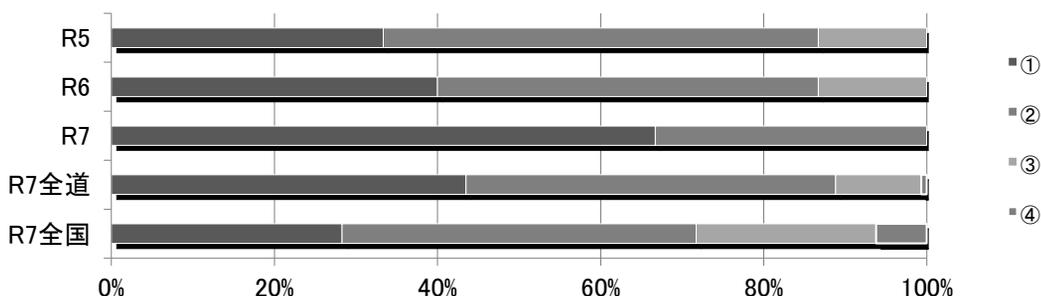
- ◆ 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った。

①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行わなかった ④全く行わなかった

【小学校】



【中学校】



【考察】

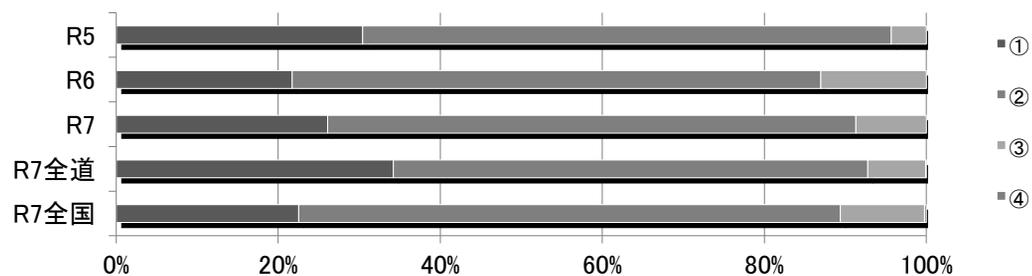
「近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」と回答した割合が小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回るとともに、年々割合が上昇傾向にある。このことから、「Tomakomai All-9」に基づいた小・中学校の連携が進んでおり、義務教育9年間を見通した系統的な指導による教育が推進されていると考えられる。今後も、エリアの学校同士が校内研究の交流や児童生徒の実態把握、学校運営協議会との連携を通じて、小中連携の取組を一層推進していくことが求められる。

〈授業改善〉

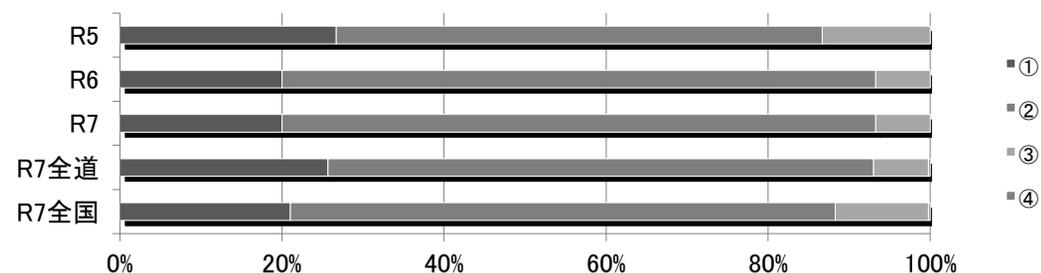
- ◆ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

【小学校】



【中学校】



【考察】

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答した割合は、小学校、中学校ともに90%を超え、全国平均を上回っている。今後も、苫小牧市の授業改善策における「4つの共通取組場面（見通す、決定する、協働する、振り返る）」を適切に位置付けた授業改善を進めることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう取組を進めていくことが求められる。